

令和6年度

研究紀要

共に歩む

第21号

研究主題

主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり
～教師による子どもの「見取り」に焦点を当てて～
(2年次／2年計画)



秋田県立支援学校天王みどり学園

題 字： 湊 慶 吉 氏（本校元学校評議員）

目次

■ 「共に歩む」21号	発刊によせて	校長 高田屋 陽子
■ 全体研究	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
■ 小学部の取組	・・・・・・・・・・・・・・・・	13
■ 中学部の取組	・・・・・・・・・・・・・・・・	17
■ 高等部の取組	・・・・・・・・・・・・・・・・	21
■ 令和6年度公開研究会	・・・・・・・・・・・・・・・・	25
■ あとがき		教頭 佐川 透
■ 研究同人		

はじめに

校 長 高田屋 陽子

本校では、昨年度からの2年間「主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり～教師による『見取り』に焦点を当てて～」という研究テーマのもと全校で取り組んできました。

このテーマには、2つのキーワードが含まれています。一つ目は「主体的に学びに向かう姿」です。これは具体的にどのような姿なのか、学部を超えて話し合い、具体的な授業場면을イメージしながら共通理解をして授業づくりを進めてきました。そうした姿を引き出す単元構成や年間指導計画についても、授業者だけでなくチームで話し合いを重ね授業改善を行ってきました。

二つ目は「子どもの見取り」です。学びに向かう目の前の子どもの「行動」と「解釈」を分けて考える。私たち教師が子どもの行動を理解する際、私も含めベテランであればあるほど子どもの行動をこれまでの自分の経験に照らし合わせて画一的に捉えてしまいがちです。「しかし、本当にそうなのだろうか?」。これまで教師の目線で捉えていた子どもの実態や行動を、一度、子どもの側に置き換えて、複数の教師が解釈を伝え合いながら丁寧に捉え直していきました。

そして、この2つのキーワードを根底に置きながら、実際の授業改善に結びつけるためのシステム作りを行ってきました。「ふらっと授業参観」「ふらっとミーティング」「ミニ教育課程検討委員会」等を関連させて実施し、肩肘張らない柔軟な意見交換の場を設けながら試行錯誤し進めてきた2年間でした。

今年度は2年間の研究のまとめとして公開研究会を開催し、他校の先生方からもたくさんのご意見をいただくことができました。自分たちの2年間の研究の成果をどのようにまとめ、伝えることができるのか改めて考える貴重な機会となりました。

研究を進めるにあたり、総合教育センターの島津憲司主任指導主事、高橋亜希子指導主事、進藤拓歩指導主事にはご多忙の中、何度も授業研究会に足を運んでいただき、研究の進め方も含めて丁寧なご指導をいただきました。また、講演の講師である金沢星稜大学の柳川公三子先生には、教師による子どもの「見取り」とはどういうことなのか、具体的かつ熱心にご教示いただくことができました。ここに改めてお礼申し上げます。

まだまだ迷いつつの研究ですが、こうして考え続けることが私たちの大事な責務だと捉えています。これまでの歩みを今年度の研究紀要「共に歩む 第21号」としてまとめました。ご高覧いただき、次年度以降の研究に生かすために、皆様から忌憚のないご意見やご感想等をいただければ幸いです。

全体研究



主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり

～教師による子どもの「見取り」に焦点を当てて～（２年次／２年計画）

1 研究主題設定の理由

（１）これまでの取組から

令和３年度、４年度は「児童生徒が自分で考え、もっと学びたくなる授業づくり～学びの過程、内面の育ちに着眼した授業研究～」の研究主題の下、研究を進めてきた。その中で主な成果と課題は次のとおりである。

【成果】

- ・単元構想シートを活用した授業者間でのミーティングと授業づくりの充実
- ・授業における具体的な「めあて」の設定と次につながる「振り返り」の充実
- ・児童生徒を見取る（評価）話合いの実施と見取りの重要性の認識

【課題】

- ・長期的な視点による単元構想
- ・学びのつながりの不足
- ・児童生徒を見取る視点や見取りを共有する方法の工夫
- ・教師の見取る力の向上

（２）目指す児童生徒の姿

これまでの取組と本校の教師の児童生徒への願いより次の２点が挙げられた。１点目は「自分で」、「自分から」行動する姿である。２点目は「自分の言葉で話す」、「自分から意思表示する」姿である。ともに「自分」というキーワードが含まれている。これは、児童生徒が学校生活における様々な学習や日々の家庭生活に「自分から」すなわち、主体的に取り組むことが重要であり、将来、社会の中で自分らしく輝き、進んで社会参加していくための基盤となる姿を育てたいと願っているものである。

（３）社会的要請から

令和３年１月、中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」では、社会の在り方が劇的に変わる Society5.0 時代の到来、新型コロナウイルスの感染拡大など、先行き不透明な「予測困難な時代」の中で、新学習指導要領を着実に実施するために、一人一人の児童生徒の資質・能力を育む、児童生徒の視点に立った「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の重要性が示されている。

また、現在学校では、資質・能力を育成するために、教師主導の一斉指導から、学習者中心の個別最適な学びの実現が求められている。その中で教師の役割は「指導者」から児童生徒の主体的な学びを支援する「伴走者」へのパラダイムシフトが必要となってきている。「伴走者」としての教師に求められるスキルとして、学習者をより多面的・多角的な視点から、多様な手段で見取る丁寧な見取りのスキルと、見取ったことを児童生徒一人一人に対して適切にフィードバックする、フィードバックのスキルが挙げられる。そして、見取りが見取りスキルや判定にとどまらず、指導の在り方の検討や次なる働き掛け、単元構想や授業づくりへと結び付けることが重要である。

以上、これまでの取組、目指す児童生徒の姿、社会的要請等から、研究主題を「主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり～教師による子どもの『見取り』に焦点を当てて～」とした。

2 研究の目的

教師の児童生徒を「見取る力」を高め、見取ったことを単元構想や授業づくり、指導の在り方へフィードバックし、チームで児童生徒が主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくりに取り組む。

3 研究仮説

教師が児童生徒を多面的・多角的な視点から見取り、見取ったそれぞれの解釈をチームで共有して「授業づくりのポイント」を基にした授業を行うことで、児童生徒が主体的に学びに向かい、一人一人が自分らしく輝く姿が見られるだろう。

4 研究1年次（昨年度）の取組から

昨年度は2年計画の1年次として「主体的に学びに向かう姿」の本校における捉え方を整理した。また、主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくりを進める上で重要となる「見取り」について、職員研修や授業研究会などを通して全職員で共通理解を図りながら実践を積み重ね、見取りから授業づくり等へフィードバックする授業研究会構築を目指した。具体的な内容と方法、成果と課題は次のとおりである。

（1）教師による児童生徒の見取りの充実

- ①児童生徒の丁寧な実態把握（自立活動の視点）
- ②「主体的に学びに向かう姿」の見取りに焦点を当てた授業研究会の工夫
- ③児童生徒の行動の変容などからの学びの見取り

（2）主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり

- ①児童生徒一人一人の「主体的に学びに向かう姿」の設定
- ②単元構想シートの作成と授業づくり
- ③日々の授業における児童生徒の見取りと教師間での共有
- ④「主体的に学びに向かう姿」を育てる授業実践

【成果】

- ・自立活動実態シートの活用による実態把握の向上
- ・授業研究会の確立と教師の資質向上
- ・「主体的に学びに向かう姿」の設定
- ・各学部の「授業づくりのポイント」の設定

【課題】

- ・授業の評価や生徒の学習評価に関する視点の弱さ
- ・複数の目による実態把握と単元（題材）構想の不十分さ
- ・「見取り」の共通理解と「場」の工夫

以上の成果と課題を踏まえ、次の三点をポイントに据えて2年次の取組を進めていくこととした。

・ふらっとミーティングの実施

課題として「単元（題材）構想の不十分さ」が挙げられた。その要因として、単元構想や授業づくりを担当に一任してしまい、複数の視点で確認しながら授業を作り上げていく機会が少なかったことや、単元構想シートが十分に機能していなかったことが指摘された。このことから、実態把握の段階から担任だけでなく、学部職員などを含めたチームで単元構想や授業づくりを進める「ふらっとミーティング」を実施していく。

・「主体的に学びに向かう姿」を活用した学びの積み重ね

単元（題材）ごとに設定した「主体的に学びに向かう姿」は単元（題材）における児童生徒一人一人の目指す姿とする。単元（題材）が終わった際は、ふらっとミーティングで児童生徒一人一人の「主体的に学びに向かう姿」を評価、修正し、授業づくりや指導方法にフィードバックして学びを積み重ねていく。

・授業づくりのポイントを基にした授業実践

各学部の「授業づくりのポイント」を活用しながら、授業づくりに取り組む。その中で検証を重ね、児童生徒一人一人が主体的に学びに向かう姿を育てる授業を充実させる。

5 研究2年次（今年度）の研究内容与方法

1年次の研究の成果と課題を踏まえ、今年度（2年次）の研究内容与方法は次のとおりである。

（1）チームで取り組む児童生徒の見取りの充実

- ①「見取り」に関する職員研修の実施（講師：柳川公三子氏）
- ②多面的、多角的な視点による見取りを基にした「ふらっとミーティング」の実施
- ③「主体的に学びに向かう姿」に基づいた学びの積み重ね

（2）児童生徒の見取りを基にした主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり

- ①ふらっとミーティングによる単元構想や授業づくりの推進
- ②「ふらっと授業参観」～「提示授業」～「研究協議」の流れによる授業研究会の実施
- ③各学部の授業づくりのポイントを基にした授業実践

6 研究計画

月	日	研究全体・学部	内 容
4	18	研究推進委員会 1	前年度の成果と課題、今年度の研究の方向性について確認
	23	研究全体会 1	今年度の研究についての共通理解
	24	学部研 1	学部研究の方向性の確認
		ふらっとミーティング 1	主に学級（学年）で児童生徒の実態把握を行う
5	1	ふらっとミーティング 2	単元構想シートを活用した児童生徒の実態把握や単元構想
6	4	職員研修	テーマ「今、求められる授業研究の在り方」 講師：柳川公三子氏
	21	全校授業研究会 1	小学部 1、2、3 年：遊びの指導 ※ふらっと授業参観を含む
7	10	指導主事計画訪問	研究説明、授業提示
	16	研究推進委員会 2	研究の進捗状況や内容、方法等について検討・確認
	25	ふらっとミーティング 3	・授業、単元（題材）の進捗状況について ・児童生徒の変容等の共有 ・これからの授業の展開、発展へのヒントなど
8	29	学部研 2	指導案検討等
9	5	全校授業研究会 2	中学部 3 年：生活単元学習 ※ふらっと授業参観を含む
	10	全校授業研究会 3	高等部アグリサービス班：作業学習 ※ふらっと授業参観を含む
	20	学部研 3	・指導案検討等
	27	研究推進委員会 3	・全校授業研の成果と課題の確認 ・公開研に向けた取組の確認
10	9	研究全体会 2	・各学部全校研の成果と課題の共有と今後の方針の確認 ・公開研に向けた取組の確認
	21	公開研究会事前授業研究会 1	小学部 4 年：生活単元学習 ※ふらっと授業参観を含む
	22	公開研究会事前授業研究会 2	高等部木工班：作業学習 ※ふらっと授業参観を含む
	23	公開研究会事前授業研究会 3	中学部 1 年：生活単元学習 ※ふらっと授業参観を含む
11	12	学部研 4	指導案検討等
12	5	公 開 研 究 会	
	19	研究推進委員会 4	・公開研の成果と課題の確認、検討事項の確認 ・今年度の研究のまとめについて
1	17	ふらっとミーティング 4	・単元構想シート ・「主体的に学びに向かう姿」 ・年間指導計画 } 評価
	23	研究全体会 3	今年度の研究の取組の成果と課題の大まかな共通理解
	23	学部研 5	今年度の研究のまとめ（成果と課題）
2	13	研究推進委員会 5	次年度に向けて方向性の確認
	25	研究全体会 4	今年度の研究のまとめ、次年度の研究の方向性の共有
3		研究紀要、研究報告発行	

7 研究の実際

(1) チームで取り組む児童生徒の見取りの充実

①「見取り」に関する職員研修の実施（講師：柳川公三子氏）

6月4日、「今、求められる授業研究の在り方」のテーマの基、今年度公開研究会の講演講師である、金沢星稜大学講師柳川公三子氏によるオンラインでの職員研修を行った。研修会では、実際の学習場面を想定し、「子どもの姿（事実）」から「子どもの姿の解釈（なぜ、そのような姿だったのか?）」を考え、その「解釈」について職員がそれぞれの視点からの「見取り」を伝え合い、考えを共有する演習を行った。

研修会を通して「事実」と「解釈」を分けて見取る意義や見取りには多様な見方と解釈があり、互いの考えや思いを尊重し、傾聴しながら対話をする姿勢（同僚性）が重要であるということを確認した。また、授業研究会の際、見取りの視点を抽出児童生徒のねらいに関する場面に絞ることで「次につながるキーワード」を焦点化することができる示唆を得ることができた。



【演習の様子】

【例】
Aさんが8時30分と書いた場面



Aさんは7時30分を指すアナログ時計を見て「8時30分」と書いた。
(S教諭)

Aさんは時計が「8を指している」と思ったのではないのか
(S教諭)

Aさんは7時30分の時計を見て「8時30分」と書いた。
(T教諭)

Aさんは時計が「7を過ぎているから8だ」と思ったのではないのか
(T教諭)

ねらいの達成度（結果）にこだわってしまいがちだが、児童生徒の学びの過程に着目できるように意識したいと思った。

子どもの姿を「事実」と「解釈」に分けて捉え、教師間で考えを共有することで子どもの課題が明確になり、指導の方向性が定まると感じた。

（図1）見取りの演習の一例

また、昨年度同様、「見取り」は「教師目線の見取り（日々の行動観察などを通して、児童生徒の実態を把握したり育成を目指す資質・能力と照らし合わせて学びの成果を評価したりする。）」と「子どもの立場に立った見取り（児童生徒の事実（つぶやき、動き、視線、関わりなど）とその背景や感情などを探る。）」を合わせて本校としての「見取り」として共通理解して取り組んでいくこととした。



（図2）見取りのイメージ

②多面的、多角的な視点による見取りを基にしたふらっとミーティングの実施

アふらっとミーティングの目的

研究1年次の課題であった「複数の目での実態把握と単元（題材）構想の不十分さ」、「『見取り』の共通理解と場の工夫」を踏まえ、ふらっとミーティングの目標を以下のように設定して実施した。

【目的】授業者のみならず、多面的・多角的な視点から、多様な手段で児童生徒の姿（実態、学び、変容）を見取り、チームで共有しながら単元（題材）構想や主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくりに取り組む。



【5月ふらっとミーティング2の様子】

ふらっとミーティングのキーワードとした「多面的な視点・多角的な視点」については次のとおり確認した。

多面的とは・・・児童生徒の個性や特性を様々な側面から捉えること

児童生徒の興味・関心や強み・弱み、障害特性や発達段階、さらに学習場面での事実（つぶやき、動き、視線、関わりなど）から児童生徒の姿を捉えること。

多角的とは・・・児童生徒の個性や特性を様々な立場から捉えること

児童生徒の姿を担任のみならず、様々な学習担当者（各教科や作業学習等）や授業参観者など、様々な立場の視点から児童生徒の姿を捉えること。

イふらっとミーティングの計画

ふらっとミーティングは年4回実施する計画とした。

月日	ミーティング	形態	内容
4月16日	職員会議	全校	・ふらっとミーティングの説明、職員への周知
4月中	ふらっと ミーティング1	学級	・児童生徒の実態把握と主に学級の教師間での共有
5月1日	ふらっと ミーティング2	学部	・単元構想シートを活用した単元構想や授業づくり ・「主体的に学びに向かう姿」の検討・設定 ・年間指導計画の作成に繋がる意見交換
6・9月	全校授業研究会	学部	主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくりの実践
10月	事前授業研究会		
12月5日	公開研究会		
7月25日他 夏季休業中	ふらっと ミーティング3	学部	・単元・題材の進捗状況の確認・共有 ・児童生徒の変容、学びの積み重ねの確認 ・「主体的に学びに向かう姿」の中間評価・改善 ※単元構想シート活用
1月17日	ふらっと ミーティング4	学部	・単元・題材 ・児童生徒の変容、学びの積み重ね ・「主体的に学びに向かう姿」 } 評価・引継ぎ

ウふらっとミーティングの持ち方

ふらっとミーティングは次のとおりの対象学習グループ、方法で実施した。

学部	指導の形態	対象学習グループ	方法
小学部	遊びの指導	1、2、3年生	対象の学習グループについて学部職員全員で複数回ミーティングを実施
	生活単元学習	4年生	
中学部	生活単元学習	全学年	各学年に学部所属の職員を加えてミーティングを実施し、グループでのミーティング後、学部全体で共有
高等部	作業学習	・アグリサービス班 ・木工班	対象とした二つの作業班担当とその班に所属する生徒の担任、国語・数学、職業などの授業担当の職員を主としたグループでミーティングを実施

エふらっとミーティングのツール（単元構想シート）の活用

研究1年次の課題「単元（題材）構想の不十分さ」として、単元構想シートがうまく機能しなかったことが要因の一つとして挙げられた。このことから、単元構想シートをより効果的なミーティングのツールとして活用し、チームとして単元構想や授業づくりの充実が図られるよう、単元構想シートの様式を変更し、次の手順で活用しながらミーティングを進めた。

- ①児童生徒の実態把握を基に、対象グループの児童生徒の興味・関心、好きなことや得意なことなどを出し合う。
- ②本単元（題材）で身に付けさせたい力、そのためにこんな授業をやったらよいのではないかなど、様々な活動のアイデアを出し合う。
- ③本単元で育てたい資質・能力や取り扱う教科とその内容等を確認する。

実際に活用した単元構想シートは、P25以降の公開研究会の各学部の学習指導案の資料として掲載する。

単元構想シート

学部	指導の形態	学習グループ	指導者名	
学部				
	興味・関心	好きなこと・得意なこと	苦手なこと・課題	↔ 育てたい資質・能力 ③
		①		

↑↓

↑↓

仮単元名	
②	
この単元で付けたい力	活動内容

（図3）単元構想シート

③「主体的に学びに向かう姿」に基づいた学びの積み重ね

主体的に学びに向かう姿は、研究1年次（昨年度）、本校の児童生徒一人一人の具体的な姿をイメージするために、「みどり学園の児童生徒の主体的に学びに向かう姿とは？」という問いを下、アンケートや全職員でのワークショップを実施したり、各学部の実践で得られた成果と課題をもとに検討を重ねたりして導き出した本校独自の目指す姿である。

ふらっとミーティングでは、この「主体的に学びに向かう姿」を参考にしながら、児童生徒一人一人の単元（題材）における「主体的に学びに向かう姿」を設定していった。単元（題材）における「主体的に学びに向かう姿」は学習指導案に記載したり教師の指導や手立ての工夫に至るまで関連させたりした。また、単元が終わった際は、一人一人の「主体的に学びに向かう姿」を基に児童生徒の変容を教師間で共有して次に生かす等、学びを積み重ねていくこととした。

	主体的に学びに向かう姿
①	学ぶこと（見ること、聞くこと、話すことなど）に前のめりになっている様子
②	自分を理解し、得意なことを生かして活動したり、苦手なことにも挑戦したりする様子
③	自分の役割ややるべきことが分かって取り組んでいる様子
④	最後まで諦めず、試行錯誤しながら活動に取り組んでいる様子
⑤	学習の良かった点や改善点を次の時間に試したり、他の学習場面や生活の中で生かそうとしたりしている様子
⑥	他者と関わったりアドバイスを受け入れたりして、やってみようとする様子

（2）児童生徒の見取りを基にした主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり

①ふらっとミーティングによる単元構想や授業づくりの推進

4月、ふらっとミーティング1では、児童生徒の実態把握と主に学級の教師間での共有を図った。5月、ふらっとミーティング2では、単元構想シートを活用した単元構想や授業づくりの方向性を考えるミーティングを行った。7月、ふらっとミーティング3では、授業の進捗状況などを確認し、中間評価・改善をしてチームとして授業づくりを進めた。1月、ふらっとミーティング4では、授業等の評価・引継ぎ等を行った。



【7月ふらっとミーティング3の様子】

また、研究部で企画・運営したふらっとミーティングと連動する形で、教務部主催でミニ教育課程検討委員会を実施した。ミニ教育課程検討委員会は教育課程検討委員会のメンバー（校長、教頭、学部主事、研究主任）に学年主任、作業学習主担当などを加え、三学部職員混合でグループを編成し、教育課程に関する事項や各学部の研究対象授業（指導の形態）の単元計画や授業についてのアイデアを出し合い、授業づくりや年間指導計画の作成に生かすための情報交換・意見交換を行ったものである。今年度実施したミニ教育課程検討委員会は次のとおりである。

月日	会議	内容
5月22日	ミニ教育課程検討員委員会①	・研究対象の授業（指導の形態）について年間指導計画を活用した、授業や指導計画に関する意見交換
9月18日	ミニ教育課程検討員委員会②	・1学期の実施状況の共有、2学期の展開についての意見交換
1月16日	ミニ教育課程検討員委員会③	・令和7年度の教育課程、週時程、特別教室割等について意見交換 ・年間指導計画の様式や活用についての評価

②「ふらっと授業参観」～「提示授業」～「研究協議」の流れによる授業研究会の実施

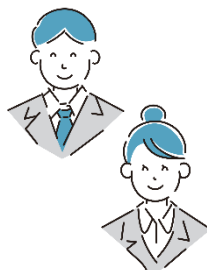
本校の授業研究会の流れは次のとおりである。年度当初に計画していた流れに加え、改めて「ふらっとミーティング」を初めに位置付け、チームとして取り組む授業づくりの基盤を固め、実施していった。

STEP1 ふらっとミーティング

授業者のみならず、チームで児童生徒の姿を共有する。チームで共有した児童生徒の姿から、単元構想や授業づくり、年間指導計画等の作成・実行・評価・改善を行い、主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくりに取り組む



STEP2 ふらっと授業参観



参観者は事前に授業を参観し、抽出児童生徒の学習の様子や授業の様子を知る機会を設定

STEP3 提示授業

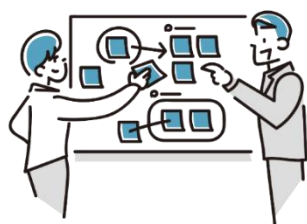


〇〇なのは△△だからかもしれない

〇〇なのは□□だからかもしれない

参観者は抽出児童生徒の学びの姿を見取り、**青色の付箋紙**に気になった児童生徒の言動（事実）を記入。**ピンク色の付箋紙**に「なぜそうしたのか」を推察し、自身の解釈を記入する

STEP4 研究協議（小グループでのワークショップ）



付箋紙を用いながら見取った抽出児童生徒の姿を伝え合い、対話を通して「次につながるキーワード」を導き出す

STEP5 授業へのフィードバック



授業者は「次につながるキーワード」から、授業改善、児童生徒への支援などにフィードバックする

（図3）主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくりのためのふらっとミーティングから授業改善までの流れ

③各学部の授業づくりのポイントを基にした授業実践

研究一年次における実践を通して各学部の「授業づくりのポイント」を導き出した。今年度はその「授業づくりのポイント」に沿って授業づくり、授業実践を行った。授業研究会は次のとおりである。

小学部	授業づくりのポイント	・好きなこと、得意なこと、分かることの実態把握 ・友達とつながるための場面設定や手立て
	ふらっと授業参観	
	6月 6日(木)、6月13日(木)	10月10日(木)
	全校授業研究会 6月21日(水)	公開研究会 12月5日(木)
	1、2、3年 遊びの指導 のりものらんどにレッツゴー！ 	4年 生活単元学習 できるんジャー！やるんジャー！⑤ ～クリスマス会でピザを振る舞おう～ 
中学部	授業づくりのポイント	・繰り返しかつ発展性のある単元構成の工夫 ・他者との関わり ・自分の思いや考えを表出するための手立て
	ふらっと授業参観	
	8月30日(金)、9月3日(火)	10月17日(木)、10月18日(金)
	全校授業研究会 9月5日(木)	公開研究会 12月5日(木)
	3年 生活単元学習 大きく育て中3ファーム 	1年 生活単元学習 湯上ツアーズ ～追分の魅力を伝えよう②～ 
高等部	授業づくりのポイント	・「卒業後」に焦点を当てた目標設定 ・他の学習への般化
	ふらっと授業参観	
	8月29日(木)、9月3日(火)	10月10日(木)、10月17日(木)
	全校授業研究会 9月10日(火)	公開研究会 12月5日(木)
	作業学習 アグリサービス班 学園祭に向けて ～グリーンガーデン(花壇)の管理～ 	作業学習 木工班 道の駅てんのうでの販売に向けて ～秋田杉の箸とデザイン箸の製作～ 

※詳細は各学部の取組に記載

8 成果と課題

(1) チームで取り組む児童生徒の見取りの充実

①「見取り」に関する職員研修の実施（講師：柳川公三子氏）

○年度初めに職員研修会を実施し、「事実」と「解釈」を分けて見取る方法やその意義について学ぶとともに、見取りには多様な見方と解釈があり、互いの考えや思いを尊重し、傾聴しながら対話をし、考えを共有することが重要であるということを確認することができた。これらのことを踏まえ、職員間の同僚性や協働性の重要性を共有し、研究を進めていくための土台を整えることができた。

②多面的、多角的な視点による見取りを基にしたふらっとミーティングの実施

○授業者のみならず、学部職員なども加えた「チーム」として児童生徒の実態を共有し、単元構想や授業づくりに取り組むことができた。

○「見取りには多様な見方と解釈がある」ことを前提に、対話を通して互いの考えや思いを共有しながら授業づくりに取り組むことで、職員の同僚性、協働性の高まりが感じられた。

○「教師目線」と「子どもの立場」を意識し、児童生徒の姿の見取りを繰り返すことで、教師一人一人の見取りに対する意識と感度、見取る力が向上した。

③「主体的に学びに向かう姿」に基づいた学びの積み重ね

○児童生徒一人一人に「主体的に学びに向かう姿」を設定し、提示授業の見取りの場面や研究協議における協議の視点を焦点化したことで、次につながるキーワードや、児童生徒への指導・支援が最適化され、授業場面における児童生徒の主体的に学びに向かう姿やその学びが積み重なっている姿や変容を継続して見取っていくことができた。

●特定の場面で学びの積み重ねを実感した反面、その他の学習場面等へ学びをつなげる部分に弱さがあった。

(2) 児童生徒の見取りを基にした主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり

①ふらっとミーティングによる単元構想と授業づくりの推進

○多面的、多角的な視点からアイデアを出し合い、学習活動を整理できた。また、抽出児童生徒の目標や主体的に学びに向かう姿の設定、評価について複数の目で確認し、検討、改善することができた。

○各学部のふらっとミーティングに加え、研究部と教務部が連携したミニ教育課程検討委員会を実施したことで、学部を超えたより多角的な視点の意見も取り入れ、単元構想を広げることができた。

②「ふらっと授業参観」～「提示授業」～「研究協議」の流れによる授業研究会の実施

○協議の視点として場面を焦点化して研究協議を行ったことで、次につながるキーワードが具体的なものになり、次時以降の授業改善や支援の工夫に取り組むことができた。

○総合教育センター指導主事と年間を通じて継続的に連携を図り、研究の進捗状況や児童生徒の変容に応じた具体的な助言をいただきながら、授業づくりに反映させることができた。

●「主体的に学びに向かう姿」を設定して個に応じた指導が充実させることができた反面、授業全体に対する改善や抽出児童生徒以外への指導の改善等に反映しきれない部分があった。

●ふらっと授業参観の回数が多く、授業者にとって負担感があった。また、参観者が授業を抜けられずに参観できないといった参観体制について改善を要する。

③各学部の授業づくりのポイントを基にした授業実践

○研究対象授業において、児童生徒一人一人に「主体的に学びに向かう姿」を設定し、授業づくりのポイントに沿って個に応じた指導を充実させてきたことで、主体的な学びに向かう姿を育む授業改善の視点が明確になり、一貫性のある授業を行うことができた。その中で、児童生徒の成長や変容、一人一人が自分らしく輝く主体的に学びに向かう姿を随所に見取ることができた。

●特定の授業や学年で得られた成果を他の学習場面等に応用、般化する機会が不十分だった。

9 今後に向けて

○本校の強みとなる「見取り」の進化・深化

本研究の2年間を通じて、チームで取り組む授業づくりの在り方について一定の成果を得ることができた。この取組における重要なポイントの一つが「見取り」である。「見取り」という言葉を使わなくても、教師が児童生徒を見る（実態把握、行動観察、行動分析など）ことは当たり前の行為である。しかし、意識しなければ表面的な言動に捉われたり、教師の思い込みや経験則により認識が偏ったりして適切な見取りと解釈ができなくなってしまうこともある。研究主題の副題として「教師による子どもの『見取り』に焦点を当てて」を掲げ、「教師目線」と「子どもの立場」の二つの視点を持ち、児童生徒の姿を「事実」と「解釈」に分けて捉えることを全教員で共通理解し、継続して実践したことにより、教師一人一人の「見取り」に対する意識や感覚が高まり、児童生徒を見取る力が確実に向上し、「見取り」を授業づくりに生かすという本校の強みと言える取組にすることができたのではないかと考える。

今後は、特定の「場」を設けなくとも、無理なく日常的に当たり前として「見取り」を継続できる体制や方法の進化・深化を目指し、さらなる取組を進めていく。

○チームで取り組む授業づくり体制のさらなる発展

もう一つの重要なポイントは「対話による共有」である。「対話による共有」が有意義かつ活発なものになり、単元構想、授業づくり、授業改善が充実した要因として、ふらっとミーティングが同僚性を生かした「場」として機能したからである。

ふらっとミーティングは、児童生徒の姿から自身の解釈を話す場であり、何を発言しても間違いではなく、否定されず安心して発言できる「場」であることが醍醐味である。本校は日頃から職員室内での会話が活発で風通しの良い職場であり、様々な業務に協力して取り組む同僚性の高い職場である。このような学校風土がベースにあったからこそ、チームで取り組む授業づくりが充実したと考える。

このことについて職員から、「子どもの内面を多面的に捉え、複数の視点で共有・協議する重要性を再認識した」、「先生方との意見交換や連携が、自分の子どもの見方を広げるとともに、指導方法や授業力の向上につながった」、「教師として学び続ける姿勢が大切だと感じた」などの声があり、ふらっとミーティングという場が、チーム値して同僚性、協働性を生かしたチームで取り組む授業づくりの場であると同時に、他者との対話を通じてチームとして学び合い、授業力の向上や教員の資質向上にも寄与する「場」であると考えられる。

以上のことから、「対話による共有」があり同僚性、協働性を生かしたチームで取り組む授業づくりの「場」が無理なく、日常的に継続できるような運営の方法や仕組み、ツール（年間指導計画や単元構想シート、学習指導案等）を関係分掌部等と連携しながら、改善・検討を重ねていく。

○本研究の成果と課題の応用・般化（つなぐ）

本研究では、小学部では遊びの指導と生活単元学習、中学部では生活単元学習、高等部では作業学習を研究対象授業として実践を重ねてきた。その中で、児童生徒一人一人に「主体的に学びに向かう姿」を設定して場面を焦点化することで個に応じた指導の充実を図ることができた。一方で、授業研究会などでは「授業全体や抽出児童生徒以外の指導についての意見が得られにくい」という声もあった。この点を踏まえ、本研究で効果的だった授業づくりの方法を他の指導形態や学習場面、単元のまとまりなどへ応用、般化（つなぐ）させることは可能なのか。また、個に応じた指導の在り方、見取りの手法などを抽出以外の児童生徒や様々な学習集団へと応用・般化（つなぐ）させるためにはどうすればよいかといったこと等を検討していく。さらに、児童生徒が学んだこと、身に付けた力を他の学習場面や日常生活、将来の社会生活へと応用・般化（つなぐ）できる方法や場の在り方等について検討を重ねていく。

参考・引用文献

- ・秋田県立支援学校天王みどり学園（2024）令和5年度研究紀要「共に歩む」
- ・中央教育審議会（2021）「令和の日本型学校教」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）
- ・明治図書オンラインHP 教育 Zine～明日の教育を創る人へのウェブマガジン～「教師 2.0」時代の見取り&フィードバック個別最適な学びに必要な教師の力
- ・文部科学省（2018）特別支援学校教育要領・学習指導要領解説-総則（幼稚園・小学部・中学部）
- ・富山大学人間発達科学部 附属特別支援学校（2018）年報
- ・柳川公三子（2021）子供の内面を捉え学びの過程に寄り添う資質・能力を培うための研修プログラム「学び合いの場」の開発に関する一考察 山梨障害児教育学研究紀要
- ・高木展郎（2019）「評価が変わる授業を変える 資質・能力を育てるカリキュラムマネジメントとアセスメントとしての評価」 三省堂
- ・田村学（2021）「学習評価」 東洋館出版
- ・中央教育審議会（2022）「令和の日本型学校教育を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～『新たな教師の学びの姿』の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～」（答申）

小学部の取組



1 研究1年次（昨年度）の実践から

（1）成果と課題

- 『自分から取り組む』『やりとりしながら活動する』『好き』なこと、『得意』なことをきっかけにしていく」と共通理解した。
- 分担した手順をペアや小グループで担当したり、友達と関わる必然性があったりしたことで、自分から友達と交代したり、友達の誘いを受け入れたりするようになった。
- 「見取り」から授業を見直し、改善した手立ての更なる評価・改善が必要と思われた。

（2）今後に向けて

- ・主体的に学びに向かう姿を引き出すための手立ての評価・改善
- ・授業づくりのポイント
「児童の好きなこと、得意なこと、分かることの実態把握」
「友達とつながるための場面設定や手立て」



2 研究2年次（今年度）の実践から

全体研究の仮説を受けて、小学部では、「多面的」視点を、児童の好きなこと、得意なこと、分かること、または苦手なこととし、「多角的」視点を授業に関わらない教師も加わる全職員による話合いと捉え、見取りを行う。それにより児童理解を深め、授業改善の選択肢を広げ、授業に反映させていく。

（1）チームで取り組む児童生徒の見取りの充実

1～3年 遊びの指導「のりもののランドにレッツゴー！①」

5/2 のふらっとミーティングで単元計画と抽出児童の選定について話題にし、5/23 は授業者と主事で授業構想の詳細を話合ってから、6/3 指導案検討会に臨んだ。単元が進むにつれて、入学したばかりの1年生2名を加えた小集団の単元における実態が見え、抽出児童の見取りを焦点化したい場面やその経緯について全職員で共有することができた。

4年 生活単元学習「できるんジャー！やるんジャー！③宿泊学習・⑤クリスマスパーティー」

5/2 ふらっとミーティングは、年間の単元計画と、繰り返し調理を継続していくメニューについて話題にした。話合いを受けて、食材やアレンジの組み合わせが多様な、ピザにすることになった。7/3 ふらっとミーティングでは、中庭で行う野外調理やタブレット端末を活用した調べ学習など単元の進捗状況、および児童の得意なこと、できることや変容について共有した。9/3 ふらっとミーティングは抽出児童の行動の見取りや気持ちの推察から、思いを言葉にしたり、発表したりする姿を次の段階でどう目指していくかが話題になった。単元構想のアイディアとして、餃子の皮でピザを作る案が挙がった。放課後、職員が試作ピザを食べ比べて意見交換する場を設けるなどしながら、9/20 指導案検討会では「味」など食材を選ぶ観点についても話し合った。また、公開研究会前日に職員で行った模擬授業は教材の提示や支援の手立てなどを再考する有益な機会となった。

（2）児童生徒の見取りを基にした主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり

①1～3年 遊びの指導「のりもののランドにレッツゴー！①」

ア授業概要について

「のりもの」をテーマに、造形遊びとコーナー遊びを組み合わせた授業を展開した。始めに、ビデオレターで車掌さんから当日作る物が示され、それを受けて造形遊びを行った。作った小道具を持ったり、使ったりしながら全員で体育館に移動し、それら小道具で遊んだり、体育館に設置された遊具を用いてコーナー遊びを行ったりした。

イ抽出児童Hについて

- ・造形遊びを好み、教師の提案を受け入れるなどしながら取り組む。
- ・興味のある活動に取り組んだり、集中しているときに、「ここに〇〇を付けて」などとつぶやいたりすることがある。

○本単元における児童Hの主体的に学ぶ姿

「自分のイメージややりたいことを言葉にしながら好きなコーナーで遊ぶ姿」

ウ授業研究会 抽出生徒の言動（太枠）、教師の見取りと解釈（細枠）

～造形遊びで乗り物の片面を貼り終えた場面と、コーナー遊びの終わりの合図が聞こえた場面から～

協議の視点① 「貼らないもん」と言っていたのに、最終的には両面に貼ったのはなぜか	協議の視点② 終わりの合図を聞いて、のりものランドを周回し始めたのはなぜか
出発の合図に、もう片面を貼り始める 本当は、裏側にも貼りたいかったけど、言われてやるのは嫌いなのではないかな 急に貼りたくなかった？ 全員集合までの間を見込んで、ねばったのではないかな	タイヤにのりを塗っている途中でチャイムが鳴った。タイヤものりもそのまま、走ってすべり台へ行く まだ遊んでなかった！ あれもしたい、これもしたい！と思ったのではないかな 人がいなくなった！ ゆっくり、思い切り遊べる！と思ったのではないかな

※授業研究会の見取りの付箋紙より抜粋

エ「次につながるキーワード」

- ・他の遊びに目を向けるきっかけ、仕掛け
- ・満足感→次の段階へ、時間の感覚の育ち
- ・出来上がりがイメージできる状態での提示
- ・十分な時間の確保・終わりの楽しみ



オ指導助言 秋田県総合教育センター支援チーム 主任指導主事 島津 憲司 氏

- ・遊具づくりの場面～時間いっぱい遊ぶことを認めていくことは大事だが、限られた時間でそれぞれが「完成したぞ」という思いをもてるよう、つくる物のパターンを複数用意してはどうか。
- ・のりものランドの場面～見守るだけでなく、教師も周回して遊んだり、のりものが故障した設定にして修理工場へ行ったり、個々の遊びをつなげていく教師の仕掛けが大切になる。
- ・文字や絵への関心が高い抽出児童の、衝動性や注意の持続の苦手さへの指導支援について考えると、授業の中に自立活動の視点を多く取り入れられるのではないかな。小学部低学年ということもあり、得意なことを生かして指導を進めていきたい。例えば、時間を視覚的に分かりやすく示したり、ポイントカードとハンコを使ってやりとりをしたりして育てることができるのではないかな。

カ授業研究会後の授業から（授業へのフィードバックと抽出児童の変容）

○自由遊びの終わりの合図を、1 修理工場の閉店→2 発車ベル→3 BGM（3分程度）という流れにした。

→終わりの10分前に修理工場を閉店したことで、対象児がすべり台や線路マットなど他の遊びに目を向けたつぶやきが増え、遊びに広がりが見られた。

遊びの終わりを3段階にして示したことで、十分に遊びに取り組むことができ、BGMの終わりにみんなと一緒に集まることができた。



②「できるんジャー！やるんジャー！③～宿泊学習でピザをつくろう～」

ア授業概要について

ピザの試作・試食を中心に、意見交換、タブレット端末を活用した調べ学習・アンケートの作成などを行った。本時は、一人一人のおすすめピザを食べ比べ、宿泊学習で作るピザを1つに決めた。

イ抽出児童Yについて

- ・友達と関わることを好み、思ったことを話することができる。
- ・発表場面では、思いついたままに話し過ぎてしまうことがある。

○本単元における児童Yの主体的に学ぶ姿

「観点に沿った理由を整理して友達に説明する姿」

ウ公開研究会事前授業研究会 抽出児童の言動（太枠）、教師の見取りと解釈（細枠）

～ピザの食べ比べを行い、考えて、自分の考えを話す発表場面から～

協議の視点 抽出児童の考えの表出を、次のステップにつなげるために			
ピザが配られたとき、すぐににおいをかいだ 調理前のこんにゃくの「生臭い」においのインパクトが強かったから、確かめたかったのではないかな	2枚のピザを食べ比べて、「きゅうりもおいしかったけど…」と言いながらこんにゃくピザを選んだ こんにゃくのにおいの変化が印象強かったから選んだのではないかな	自分の発表が終わったあと、にんまりして席に戻った 発表した内容が大事な意見として認められたという思いがあるのではないかな	発表したかったこと、気付いたこと、感じたことを話すことができたという満足感、充実感を得たのではないかな

※授業研究会の見取りの付箋紙より抜粋

エ「次につながるキーワード」

- ・国語のちから ～経験と結び付いている「ちから」

オ指導助言 秋田県総合教育センター支援チーム 主任指導主事 島津 憲司 氏

- ・学習指導案上に「自分なりの言葉で話す」という目標が3人に挙がっているが、個に応じた違いを整理することで、教師の支援や引き出したい姿が明確になり、児童が発表する姿の違いが際立ってくる。
- ・体験があるので、発表を聞いたときにお互いがイメージすることができる。話したことと掲示物をつなげて整理し、自分の言葉が残っていくことで、「やりとり」になっていくのではないかな。
- ・考えたり、観点を示し言葉を選んで発表したりする活動よりも、体を動かして役割を果たす活動が多く設定されている児童もいる。その児童の活動を、他の友達にとっても役に立つと実感されるものにしていく。

カ授業研究会後の授業から（授業へのフィードバックと抽出児童の変容）

引き続き、経験したことを言葉にしていけるよう、試作・試食→おいしいピザを選ぶ→理由を発表するという流れで学習活動を設定した。試食の際、児童が話したことを教師が付箋紙に書き「つぶやきメモ」の台紙に貼って文字で残し、それをもとに自分の考えを整理したり、発表時に活用したりしながら自分の気持ちを言葉で表現する力を高めていった。

抽出児童は「つぶやきメモ」をもとに自分の考えを見直して、優先順位を考えることができるようになってきた。



②「できるんジャー！やるんジャー！⑤～クリスマスパーティーでピザを振る舞おう～」

本時は、小学部のアンケートで出た具材で一人一つピザを試作し、みんなで食べ比べてクリスマスパーティーで振る舞うピザを1つに決めた。

キ公開研究会授業研究会 抽出児童の言動（太枠）、教師の見取りと解釈（細枠）

協議の視点 話したいことに優先順位をつけ、選んだ理由を観点に触れながら発表することができたのはなぜか		
自分の発言が書かれた付箋紙をじっと見つめ、そこから付箋紙を3枚選んで、1～3の優先順位が書かれた枠に貼り、発表シートを完成させた。 自分の発表したことが付箋紙に書かれていたり、後から発表シートの枠が提示されたりしたことで「整理すること」に集中できていたのではないかな	発表シートになかった4つ目の理由を、発表場面で付け足して話した 友達が付箋紙に書かれていないことを発表し、褒められているのを見て「自分も4つ話したい」という気持ちになったのではないかな	発表シートを見ながらスムーズに発表した 繰り返しの学習で見通しがもてており、付箋紙があることで安心感があったのではないかな

※授業研究会の見取りの付箋紙より抜粋

ク「次につながるキーワード」

- ・自分の思いを相手に伝える言葉にする
～これまでに出了キーワードを活用・文章化～
- ・児童のねらいに応じて「考える→発表する」の過程を工夫する

ケ指導助言 秋田県総合教育センター支援チーム 主任指導主事 島津 憲司 氏

- ・「みんなで決める」ためのお互いの関係性ができている。本時は多数決というやり方で決めていたが、集団の学習であるからこそ出くわした“生の問題”として貴重な話合いの場面だと捉えて、話合いを通しピザを1つに決めるなどの活動などにもつなげていけそうだ。
- ・「見取り」となると、児童のマイナス的な行動に注目しがちだが、よい行動に対する見取りについても整理しておく、授業づくりの話合いがより有意義になるのではないかな。よい行動の見取りもして、他の学習場面でも生かせそうな有効な手立てを洗い出してみたい。
- ・見取りを丁寧に職員間で共有することを積み重ねたことで、次の支援として生かされ、児童との関わり方など授業改善に確実につながっている。合わせて、集団で学ぶよさなど生活単元学習としての授業づくりのポイントを改めて押さえることも大切になってくる。見取りの在り方と両輪にしながら、授業づくりのポイントを整理し、さらなる授業改善につなげてほしい。

コ授業研究会後の授業から（授業へのフィードバックと抽出児童の変容）

これまでの学習で出たキーワードがまとめられている観点表（「味」「食感」「香り」「その他」に分類した表）を見ながら、言葉を相手に伝えるよう文章化して、アプリでちらしを作成した。

クリスマスアレンジを決める活動では、タブレット端末で調べたり、「作りやすさ」を考えてアレンジの仕方を決めたりした。生地を星型に切るなどの活動は難しかったが、お互いに助け合いながら「難しい」や「時間がかかる」など実体験を伴った意見を伝え合う自然な話合いが行われていた。抽出児童は、話合いで友達が用いた言葉に着想を得て発表場面で自分でも使うなどしながら、「しょっかん」などの観点に沿って、選んだ理由を整理して友達に説明した。



3 学部の実践のまとめ

（1）成果と課題

- 学部職員全員で抽出児童の「好きなこと」「得意なこと」「分かること」を基に実態把握や話合いを複数回行ったことで、多面的・多角的な視点による児童の実態のとらえ直しがなされた。それらは、主体的に学びに向かう児童の姿を導くための授業構想、単元構成、手立ての見直しなどに結び付いた。
- 研究授業の立案にあたって、授業者から出された問いに沿った意見交換や、全職員による教材研究、模擬授業などが役立った。授業研究会では、授業改善の選択肢を得た。
- 「見取り」を通して得られた、実態把握や授業構想、支援の在り方、また授業改善といった様々な知見を抽出児童や該当した授業の枠にとどめず、他の教科や場面にもつなげていけるのではないだろうか。
- 授業づくりのポイントを振り返ったときに、「友達とつながるための場面設定や手立て」について、低学年児童は、一人で十分に遊ぶことで、周りに目を向ける余力が生じるのではという意見もあった。友達とつながる姿を念頭に置きつつも、今の児童の主体的な姿への支援を選んでいきたい。

（2）今後に向けて

児童が「分かる」ことについて、児童のこれまでの経験の蓄積や、児童にとっての「分かる」ことの深さなどを、絶えず見直していく必要を感じた。加えて、校外学習での実体験や、外部講師からの刺激の大きさも「分かる」を広げることにも実感された。

更新し続ける児童の「分かる」、あと少しで届きそうな背伸びを一押しするような「課題設定」、児童がやり遂げたときの「手応え」。これらの視点を、児童の「見取り」のその先に活用して、授業づくりを行っていきたい。

中学部の取組



1 研究1年次（昨年度）の実践から

（1）成果と課題

○経験の積み重ね

年間を通して、校内・校外と関わる対象を替え繰り返し行った単元の中で、見通しをもって自分から活動に向かう姿が見られた。

○生徒同士をつなぐ支援

思いの表出が苦手な生徒の見取りから「ペアでの活動」「教師の仲介」に焦点を当てたことで、思いを伝える姿が見られるようになった。

●展開場面で見られた主体的に学びに向かう姿を、導入やまとめの場面でも引き出す工夫が必要。

●成果である繰り返しの活動や生徒同士をつなぐ支援を他授業にも生かす意識付けや仕組みづくりが今後求められる。



（2）今後に向けて

中学部授業づくりのポイント

繰り返しの活動の設定

- ・自分の考えを伝えられるような手立てや場面の工夫
- ・導入と振り返りの工夫

また、中学部生徒の「主体的に学びに向かう姿」（全体研究 P7 参照）を集計したところ、「他者と関わったりアドバイスを受け入れたりしてやってみようとする」の項目が含まれる生徒が多いことが分かった。これを踏まえ、「他者との関わり」が中学部の「主体的に学びに向かう姿」のキーワードとなると考え2年次の研究を進めていくこととした。

2 研究2年次（今年度）の実践から

（1）チームで取り組む児童生徒の見取りの充実

ふらっとミーティングでは、生徒の実態把握の充実とその共有を始めとして、中学部全学年の生活単元学習について全職員で検討する機会を設定した。

ふらっとミーティング①（4月）では、各学年単位で生徒の実態把握を中心に行った。この段階では、学級担任が中心となり、学級の状況や個々の生徒の特性を共有した。

ふらっとミーティング②（5月）では、ふらっとミーティング①で得られた実態を基に、学級集団の特徴を把握し、育みたい力や資質・能力を明確にすることを目的として行った。その際、学級担任だけでなく、他学年、担任外の職員の視点を取り入れた。担任外の職員からは、学級を学部全体の中で捉えた意見、他者との関わり方や個別の支援が必要な場面などが挙げられた。こうした視点を共有することで、担任だけでは気付きにくい学級としての特徴や育みたい力をより具体的にすることができた。

ふらっとミーティング③（7月）では、4月からの生活単元学習の進捗状況や授業づくりの具体的な内容について職員間で共有し、今後の授業づくりのアイデアを出し合った。また、学年間の連携を深めるため年間指導計画と照らし合わせた授業づくりの検討を行った。

このように年度の早い段階からふらっとミーティングを行うことで、「生徒の目指す姿」や「主体的に学びに向かう姿」を複数の目で検討し、それを踏まえて生活単元学習の方向性を共有することができた。また、その中で授業づくりのポイントについても再検討を行い、以下の3点とした。

- ・繰り返しかつ発展性のある単元構成の工夫
- ・他者との関わりを意識した学びの設定
- ・自分の思いや考えを表出するための手立ての工夫

(2) 児童生徒の見取りを基にした主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり

① 中学部3年 生活単元学習 「大きく育て中3ファーム～オリジナルのフライドポテトレシピをつくろう～」 ア授業概要について

一昨年度から継続して行ってきた畑での作業や、調理の活動で構成しており、生徒たちの興味・関心や意欲も高い。その中で相手を意識し、よりよいものを提供するためにはどうすればよいかを主体的に考え、表現することをねらいとした授業である。

イ 抽出生徒Aについて

- ・教師の言葉掛けを受けてから活動を進めることが多い。
- ・話合いの場では友達の話聞いていることが多い。
- ・話合いの前に自分の意見をまとめる時間を十分にとると、独創的な考えを発表することがある。

○ 本単元におけるAの「主体的に学びに向かう姿」

「自分の考えを言語化し、相手に伝えようとする姿」



ウ 授業研究会 抽出生徒の言動（太枠）、教師の見取りと解釈（細枠）

「レシピの改善案をメモに書き、意見を伝え合う活動」の中で、Aが「包丁を薄くする」とメモに書いた。教師が「薄く切るということ？」と聞くと、Aは考えた後にうなずき、Aの意見は「じゃがいもを薄く切る」ということで話合いが進められた。この意見が、Aの本意だったのかを協議の視点に設定し、見取りを行った。「見取り」の中では、「包丁の薄さそのものを言いたかったのではないか」、「厚さや薄さの意味があいまいなのではないか」などの意見が出され、Aの言動をもとに考察が行われた。

協議の視点 付箋紙に「包丁をうすくする」と改善意見を書く。教師が「ちょうどいい薄さにするということ？」と聞くとうなずいた。本意はどうだったのか？		
「包丁をうすくする」と書く	「薄く切りたい」と言いたい？	見本の中から迷わず自分が考える薄さのものを選ぶ
話すより書く方が得意だが、どう表現したらよいか分からないのでは？	教師の言葉掛けに同意したが、意味を理解できていない？	私は薄くしたい！
包丁が握りにくかった？切りづらかった？		1回目の「厚くしすぎて中まで火が通らなかった」経験と厚さの理解

研究会の見取りの付箋紙より抜粋

エ 「次につながるキーワード」

- ・体験的な活動の設定
- ・経験と言葉の一致
- ・生徒に委ねる場面の設定

オ 指導助言 秋田県総合教育センター支援チーム 指導主事 高橋 亜希子 氏

生徒が話し合い活動を通じて主体的に考えを表出できるような授業づくりが行われていた。メモを活用して意見を整理する工夫や、「見た目」「味」「食感」という具体的な観点を設定した点が効果的だった。一方で、学習のゴールや単元全体での目指す姿が十分に明確化されておらず、各時間の到達目標を具体化することが課題。学部研究としては、生徒の実態をもとに「見取り」を重ね、多様な意見を尊重しながら進めることが重要。少数意見にも注目し、授業構想シートや年間指導計画との整合性を意識しつつ、指導の改善を進めていくことを期待する。

カ 授業研究会後の授業から（授業へのフィードバックと抽出生徒の変容）

- ・「調理」の中で、実際に様々な厚さでじゃがいもを切り、比較する場面を設定した。
- ・「均等に揚げるためにはどうしたらよいか」など、話し合う内容を限定し、生徒同士に委ねる場面を設定した。

抽出生徒Aの変容

体験的な活動である「調理」を繰り返し行う中で、「薄い方が火が通りやすい」と、実感を持った発言をする姿が見られた。単元の最後にはペアの友達に「私がやります」などと意見を伝えたり、自分から友達に「手伝ってほしいです」と、助けを求めたりする姿が見られるようになった。

②中学部１年 生活単元学習 「潟上ツアーズ～追分の魅力を伝えよう～」

ア授業概要について

学校の所在地である「追分地区」のことを知り、地域とのつながりを深めることを目的として、飲食店への「取材」を行った。生徒たちは取材対象となる店舗を替えながら、「取材準備」「取材」「編集」の三つの活動を繰り返し行い、グルメマップの制作を行ってきた。本時では「取材準備」として和菓子屋に取材に行く前の食リポ練習の授業を行った。

イ抽出生徒Dについて

- ・失敗することを恐れて活動に消極的な様子が見られる。
- ・自分の気持ちや考えを聞かれると「分からない」と表現することが多い。



○本単元におけるDの「主体的に学びに向かう姿」

「自分の考えを表出する言葉を探し、相手に伝えようとする姿」

ウ公開研究会事前授業研究会 抽出生徒の言動（太枠）、教師の見取りと解釈（細枠）

取材に向けた食リポの活動の中で、教師から「後味は？」と問われ「何て言ったらいいかわからない」と答えた。教師が友達のワークシートの感想を参考にするよう促したが、なお答えることができない。別の教師が「自分の考えに一番近いものを指差して」と提案すると、「ほんのり甘い」という表現を選んだ。この場面でのDの感情や思考の動きを中心に「見取り」を行った。

見取りでは、「味や食感を表す語彙を十分に習得していない可能性がある」という意見が出された。また、授業後の雑談において、Dが以前わらび餅を食べた際に「つるっとしていた」と表現していたことが明らかになり、「好きなものや体験したことであれば言葉にできるのではないか」という考察が行われた。

協議の視点 団子の試食の感想「何て言ったらいいかわからない」と答える。その後、友達のワークシートを介してやり取りをし、最終的に「ほんのり甘い…」を指した場面の気持ちの動きは？		
「後味」の項目にすぐに「なし」と書く	「団子を食べたことある人」の問いに手をし「わらびもち」と答える	黙って鉛筆をいじる
経験不足で自分の感覚に言葉を当てられない？	知っていること経験していることについては自信をもって答えられるのでは	鉛筆が気になる。とりあえず決めておくか。という感情？
食感などを表す語彙をそもそも習得してきていない？		

エ「次につながるキーワード」

- ・活動の目的の明確化
- ・体験的な活動
- ・グルーピングの工夫

研究会の見取りの付箋紙より抜粋

オ指導助言 秋田県総合教育センター支援チーム 指導主事 高橋 亜希子 氏

Dの気持ちを表出するために食リポの活動を中心とし、ワークシートを効果的に活用することで、生徒たちが意見を整理しやすくなっていた。この活動は、思いを言語化し、順序立てて話す力を育む良い機会だった。一方で、授業のゴールが生徒自身に十分伝わっていたかが課題となった。地域に出掛けて学ぶ活動やグルメマップを制作する目的について明確にし、生徒が「何のために学ぶのか」を意識できるとよい。また、今後の取材活動において、他店との違いやお店独自の魅力を考える機会を設けることで、生徒たちがさらに表現力を磨けるような手立てが必要。地域の方々との直接的なやり取りの中から、生徒自身が学びの実感を深められることを期待する。

カ授業研究会後の授業から（授業へのフィードバック）

「食べてみたい」「行ってみたい」と感じさせるグルメマップの制作を目的として、導入やまとめの場面でその目的を繰り返し確認する機会を設けた。また、「取材」や「食リポ」の場面を動画で記録し、生徒のつぶやきや考えをメモに残すことで、編集時に活用できるようにした。また、グループ編成を見直し、取材する店舗ごとに活動を進めることとし、話し合いを通じて記事を作成する構成に変更した。

キ公開研究会授業研究会（教師の見取りと解釈から）

前時に取材したケーキ屋の編集メモを作成する話し合いの前半では、Dが「迷う」「B君助けて」「思

い付かない」とつぶやく姿が見られた。一方、話合いの後半では「チョコレートの粉末がのっている」と自分から発言した。Dの言動の変化について、その背景にある感情や思考の動きを中心に「見取り」を行った。

見取りでは、「Dの以前の姿と比べると、Bへの信頼感が増して、発言全体が増えている」「教師が離れ、Bと二人きりになったときに発言していた」など言動の背景にあるBとの関係や、それに基づいたD自身の活動への自信について多くの考察が行われた。

ク「次につながるキーワード」

・安心できるペアの継続 ・主体的なやり取りを引き出す場 ・操作しながら相談するための手立て

ケ指導助言 秋田県総合教育センター支援チーム 指導主事 高橋 亜希子 氏

「おすすめメニューの魅力を伝える言葉を考える」ことを主眼とし、取材に関する言葉を思い出し、他者に伝えようとする姿が見られた。特にDが自ら意見を伝えたり、Bに質問して助けを求めたりする姿が見られ授業改善の成果が表れていた。

単元終了に向けて、生徒の変容を具体的に把握し、活動を振り返る場面を設け、期待する「主体的に学びに向かう姿」を明確化することが求められる。さらに、生活単元学習と他の学習との学びを関連付け、指導計画の整合性を高め、学級全体として成長を促していくことが重要。生徒の経験や内面の動きを重視した授業づくりを意識し、次の段階への準備を進めていくことを期待する。

コ授業研究会後の授業から（授業へのフィードバックと抽出生徒の変容）

- ・タブレット端末の「Keynote」の共有機能を活用し、複数の生徒が同時に資料を編集する場面を取り入れた。
- ・DとBだけでなく、グループ全体で相談しながら担当部分を編集する活動内容に変更した。



抽出生徒Dの変容

単元の後半、マップの編集の中で、「取材の感想コーナー」を担当し、自身の取材体験と言葉を結び付け、感想を文章化した。文章化する前は、編集グループの友達に「俺が一番印象的だったのは〇〇」

「店主さんはこだわりがある人だと思う。なぜなら…」などと自分の意見を自然と話す姿が見られた。また、友達に「〇〇君はここに写真を入れて」などと自分から働き掛ける姿が見られるようになった。

3 学部の実践のまとめ

(1) 成果と課題

- 研究1年次で設定した「授業づくりのポイント」をふらっとミーティングや日々の授業実践と照らし合わせて再整理し、単元計画や活動内容等に反映させることができた。
- 全学年の生活単元学習について構想の段階から全職員で検討を行った。それにより、学級の特徴や学びの方向性を共有した上で「見取り」を行い、一貫性のある授業づくりができた。
- 抽出生徒を設定する際、「主体的に学びに向かう姿」が「自分の気持ちを言葉で相手に伝える」という点で類似している生徒を意図的に選定したことにより、他学年の単元であっても「次につながるキーワード」が応用でき、学部として継続的な授業改善ができた。
- 生徒の特定の場面の「見取り」から得られた成果を般化して、他の場面や授業の中でどのように生かすことができるかについて、具体的な検討が行えなかった。

(2) 今後に向けて

- ・ふらっとミーティングの今年度の取組を受け、次年度以降も継続して行うために、実施時期や回数、ミーティング内容について計画を作成する。
- ・生活単元学習のみならず、他の授業でも「見取り」の視点から授業づくりを行い、生徒の言動の背景や内面に視点を向けた授業改善を継続して行っていく。

高等部の取組



1 研究1年次（昨年度）の実践から

（1）成果と課題

○見取りの共有による、支援や目標設定の充実

学級担任と作業学習担当がふらっとミーティングを通して日々の見取りを共有したことで、適切な役割の設定や補助具等の支援の充実につながった。また、実習の様子や評価について共有したことで、後期の作業学習におけるスムーズかつ適切な目標設定につながった。

●生徒の理解を支える支援

目標や役割が教師からトップダウン的に生徒に下ることがあり、生徒にとって自分事としての意識が薄くなることがあった。目標に対する生徒自身の理解が課題となった。

●卒業後を意識した指導内容の絞り込み、支援方法の共有

卒業後に求められる力をより焦点化し、作業担当と担任以外の生徒を取り巻く広い範囲でアプローチしていくことが必要であると分かった。

（2）今後に向けて

高等部授業づくりのポイント① 「卒業後に焦点を当てた目標設定」

外部評価を活用し、生徒が自分事として課題を捉え価値付けられるような目標設定を行う。

高等部授業づくりのポイント② 「他の学習への般化」

より細かな見取りの共有を行う。様々な学習担当が、目標を共通理解して生徒にアプローチする。

2 研究2年次（今年度）の実践から

（1）チームで取り組む児童生徒の見取りの充実

ふらっとミーティング①（4月）

・各学年単位で、実態の共有を行った。学級担任が中心となり、学級の状況や生徒の実態を共有した。

ふらっとミーティング②（5月）

・アグリサービス班、木工班の今年度の活動や生徒の実態について、他の学級や作業学習グループの教師が入り混じり小グループに別れて話をした。これにより、5月時点ではまだ曖昧だった生徒の実態や課題への理解が深まり、適切な個人目標の設定や実態に合わせた掲示物の工夫などにつなげることができた。

・外部評価の活用方法について検討し、以下の3点を行うこととした。

①現場実習の外部評価のファイリング、学部回覧（2・3年生）

②担任による校内実習の評価と学部回覧（1年生）

③巡回指導記録の様式変更（見取りの観点統一）※1

※1 現場実習時、相手先に聞き取る点を学部内で整理し、見取り・聞き取りの観点を統一した。巡回指導担当者の観察と実習先からいただいた声を分けて記録できるようにした。

6月17日 13時30分 ～ 13時50分 訪問者 【朝香】	作業の様子	品出しを行っていた。品出しする商品一つ一つ丁寧に扱い賞味期限の早い商品を前に遅い商品を後ろに並べることを意識して行うことができていた。商品のある場所を見つけるのに少し時間がかかっているようだった。お客さんへの挨拶を笑顔で元氣に行えるとよいと感じた。	
	担当者からの 聞き取り事項	作業	午前中は野菜の袋詰めを行った。とても丁寧に、集中して作業できている。
		生活	水分補給の際、汗をたくさんかいている様子だった。汗の処理も正しく行えている。
		態度	

【巡回指導記録】

ふらっとミーティング③（7月）

・全校授業研究会に向けた、学習課題の設定や作業内容、グルーピングの検討を学部内で行った。生徒一人一人の個人目標達成に向け、細かな作業工程や支援方法について話し合った。

（２）児童生徒の見取りを基にした主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり

①アグリサービス班 作業学習「学園祭に向けて ～グリーンガーデン（花壇）の管理～」

ア授業概要について

前題材で学んだ知識や道具の使い方を生かし、本時はポット上げの活動を行う。グループやペアでの作業を行う中で、主体的に発信・協力する場面を意図的に設定した。自分の役割に責任をもち、仲間や教師と相談しながら問題を解決する経験を増やし、考えるや協働する力を育むことを目指した。



イ抽出生徒 F について

- ・苦手なことに対して不安を感じている様子が見られる。
- ・仲間との協力場面を繰り返し設定したことで、積極的に挑戦する姿が見られるようになってきた。

○本題材における F の「主体的に学びに向かう姿」

「仲間と一緒に新しいことや苦手なことに挑戦し、助け合いながら取り組む姿」

ウ授業研究会 抽出生徒の言動（太枠）、教師の見取りと解釈（細枠）

協議の視点① 受け身ではなく、声を掛け合って取り組むことができていた。今後、ステップアップするための場の設定や支援はどうあればよいか。	協議の視点② 正しい穴の深さではないポットが複数あったが報告。これでよいと思って報告したのか、曖昧だったが終わったので報告したのか。
友達に「これって準備する？」 不安。活動を覚えていないのではないかな？ 話しやすいグループ。安心が必要かな？ 友達の後ろをついて行く 活動が分からないわけではないが、一人で役割を果たす経験が少ないのでは？	ポットに土を入れた後、スコップをもつてうろうろ 土の量を調整することは分かっていたが、適量が分かっているのではないかな？ 友達の作業の様子をちらちら見ていた 穴あけの正解が分からない？友達のまねをしていれば大丈夫と思っているのではないかな？

※授業研究会の見取りの付箋紙より抜粋

エ「次につながるキーワード」

「協力する姿の言語化」、「自己理解」、「工程や支援の引き算」、「自信のある作業でリーダー」
「グルーピングの工夫」、「知識、技術の習得」、「グループ作業と一人で行う作業の組み合わせ」

オ指導助言 秋田県総合教育センター支援チーム 指導主事 進藤拓歩氏

作業学習は「働く意欲を培う」ことを目的としている。アグリサービス班は自然の中での活動のため、天候に左右される難しさもあるが、臨機応変な対応力を養うことができる。粗大運動で体力を養ったり細かい作業で集中力を育てたりすることも可能である。収穫の喜び、収穫したものを加工して販売する喜びといったことも農作業ならではの体験だと考える。その作業だからこそ育まれる力について押さえておくといよい。本時の授業では、掲示物や教材が充実しており、生徒たちが安心して作業に取り組める環境が整っていた。本題材の指導計画における序盤の段階としては、丁寧で効果的な設定だった。この後、先生方の働き掛けをどのように減らしていくかがポイントとなる。F は動き出しが遅れることがあるが、一度動き出すと集中して作業に取り組む姿が見られた。今日は自ら考え行動する姿が目立ち、次のステップに進む姿勢が見られた。

カ授業研究会後の授業から（授業へのフィードバックと抽出生徒の変容）

「グルーピングの工夫」→一人で畑一畝を担当する機会を設定することで、仲間の担当する畝と見比べ間違いに気付いてやり直したり、分からないことを教師に自分から聞きに来たりする姿が見られた。別作業でリーダーに任命した際は、仲間に教える姿が見られた。本題材で目指す姿が多く見られるようになった。

「協力する姿の言語化」→「Aさんが一緒に作業をしてくれたので時間内に目標数が達成できましたね」等、協力した場面を具体的に伝えることで協力を実感し、具体的な「協力する姿」を振り返ることができた。

②木工班 作業学習 「道の駅てんのうでの販売に向けて～秋田杉の箸とデザイン箸の製作～」 ア授業概要について

道の駅てんのうでの作業学習製品販売会に向け、箸 60 膳を製作した。自分が担当する工程に責任をもち製品の仕上がり具合を自分で確認すること、報告をするときの目線や声の大きさ等基本的な態度を身に付けることを単元の大きな目標とした。



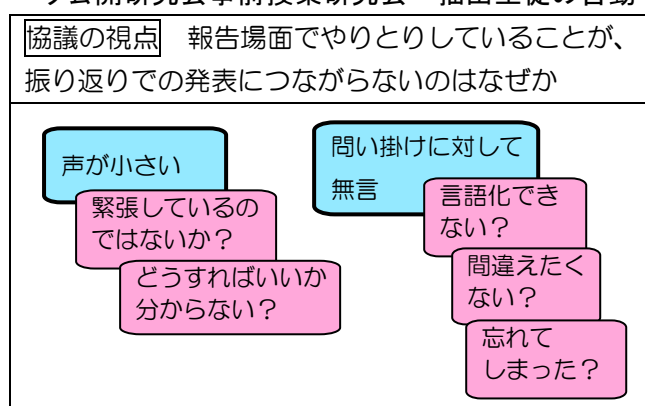
イ抽出生徒 N について

- ・今年度本校に入学。本題材では箸のかんな掛けを担当している。
- ・題材設定前は自分に自信がなく、後ろ向きな発言が多かった。
- ・経験したことがない活動は拒否をする、消極的な姿が見られた。

○本題材における N の「主体的に学びに向かう姿」

「製品の仕上がり具合を自分で確認しながら作業を進める姿」

ウ公開研究会事前授業研究会 抽出生徒の言動（太枠）、教師の見取りと解釈（細枠）



一回目のかんな掛けで、箸がひし形になってしまった。報告時、教師から理由を尋ねられたが「分かりません」と答える。そのため、力の入れ方を確認する場面を設定した。

その後、規格通りに仕上げることができた。しかし、振り返り場面では言葉がなかなか出てこなかった。作業中はポイントを意識して作業できていたのか、それとも言葉として表現することができなかったのか。

※授業研究会の見取りの付箋紙より抜粋

エ「次につながるキーワード」

「斜めにならないための手立て」、「個別の振り返り」、「行動と言語をつなげる」

「見え方への配慮と環境整備」、「視覚化する、繰り返す」

オ指導助言 秋田県総合教育センター支援チーム 指導主事 進藤拓歩氏

生徒が自分の役割に一生懸命取り組んでいる印象を受けた。様々な配慮に支えられており、工程表、出来高表がとても見やすかった。チェックポイントも、ふらっと授業参観を受け改善が見られた。教師の言葉掛けについても、言葉の量や話し方が配慮されており、自分たちで考えて動くことにつながっていた。

N は、自分で規格を見ながら丁寧に作業を積み重ねている。学習活動がうまく進んでいくポイントだった。一方、見え方や言語化が今後ポイントとなる。教師側が発する言葉を工夫したり言語でやりとりする際工夫をしたりする必要がある。自立活動の視点も重要となる。

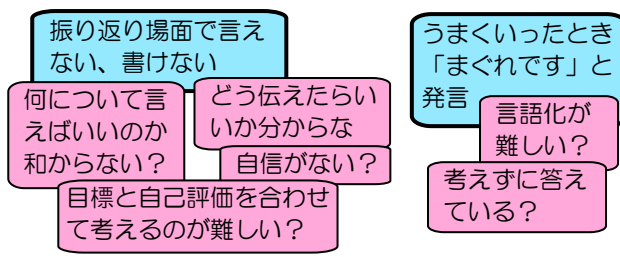
カ授業研究会後の授業から（授業へのフィードバック）

「見え方への配慮と環境整備」→抽出生徒の視力が弱いことと外部専門家の助言を基にかんな掛けの治具の工夫と作業台の高さ調整を行った。

「行動と言語をつなげる」→生徒から言葉が出ないときには、教師側から「力の入れ方」、「角度」「かんなの持ち方」の三つを観点として提示した。

報告の都度、N と一緒に失敗や成功を確認し言葉を引き出している。しかし、それが学習のまとめ場面の振り返りにつながらない。本時では、作業日誌に記入できたのは「のぎすで、はかることができました」という言葉だけだった。どうすれば振り返りの際、文章に表したり周囲に伝えたりできるだろうか。

協議の視点 報告場面でやりとりしていることが、振り返りででの発表につながらないのはなぜか



※授業研究会の見取りの付箋紙より抜粋

ク次につながるキーワード」

「ポイントを始めに確認→ポイントに対して振り返りのできるキーワード」

「振り返りにつながる場면을視覚化」、「認める場面を増やす」、「即時評価の視覚化」

「チェックポイントを意識した振り返り」、「“まぐれ”をまぐれにしない」支援

ケ指導助言 秋田県総合教育センター支援チーム 指導主事 進藤 拓歩 氏

熱心に作業に取り組んでおり、育ちを感じる。音声言語でのやりとりが難しいからメモや写真というように、一足飛びに手立てにいつてしまうことがないようにしたい。「本人」にとって振り返りやすいツールは何か、学習者の視点を意識し本人と作戦会議をするのも一つではないか。生徒本人のキャリア形成に寄り添い、生徒が主語になるようにしていければよい。

題材計画は、細かい単元計画の記載があれば主体的・対話的で深い学びのデザインが見えてくるのではない。作業学習製品製作と販売準備で、題材を分けてもよい。

コ授業研究会後の授業から（授業へのフィードバックと抽出生徒の変容）

「振り返りにつながる報告場面を視覚化」→作業中に生徒が話したことを、簡略化・キーワード化して、教師が付箋紙に書いて残した。報告時言葉が出てこないときに、書き残した付箋紙を見返したり、「かんなの角度」「木材の固さ」等の選択肢を提示したりした。これにより、以前より短い時間で作業日誌記入できるようになった。箸の幅を削りすぎた際には、報告時その理由を話せることが増えた。付箋紙を使った振り返りの方法が合っているか、抽出生徒に確認したところ「頭ではいろいろ浮かんでくるけど、言葉では出てこない。これ（付箋紙）があると、やりやすい。書きやすい」と話したため、現在は生活単元学習等その他の学習でも、付箋紙を活用している。

3 学部の実践のまとめ

（１）成果と課題

○前年度の反省を生かし、ふらっとミーティングを通して見取りの共有を学部全体で継続的に行ったこと、実習後に外部評価（１年生は担任による評価を導入）の共有と活用を行ったことにより、生徒を取り巻く様々な学習担当が明確に生徒個々の目標を認識し、他の学習場面でアプローチすることができた。これにより生徒自身にも目標が「自分事」として意識付けられ、多くの変容や成長が見られた。

○今回の授業実践の中で、共通して「振り返り場面での言語化」「自立活動の視点」がキーワードとして挙がり、主体的に学びに向かう姿を育てるための有効な視点として見出された。

●抽出生徒に焦点化していた実践を、どのように他の生徒にも活かすのか、その還元方法について整理する必要がある。

（２）今後に向けて

- ・「主体的に学びに向かう姿」を引き出すため、安心できる環境設定やグルーピングの工夫を行っていく。そのために、学部内で「見取り」を引き続き共有し、生徒を多角的に捉えていく。
- ・思考が深まるような発問や手立ての工夫を行っていく。その際は生徒とともに方法を検討し、本人の考えや意見を尊重しながら自己決定できるようにする。
- ・「夢や願い」の実現に向け自己理解を深め、「どうすればできるのか」「何をすべきか」を生徒自身が考え、判断する力を高めるために、キャリアノートを活用して自己と向き合う機会を設けていく。

公開研究会



◆小学部 4 年 生活单元学习

◆中学部 1 年 生活单元学习

◆高等部木工班 作业学习

令和6年度公開研究会

12月5日、本校と総合教育センター講堂を会場に、公開研究会を開催した。研究会には県内特別支援学校等から30名を超える先生方に御参加いただいた。

提示授業では、各学部において「児童生徒の主体的に学びに向かう姿を育てる授業」を提示した。また、分科会では、御参加の皆様を交え、「見取り」に基づくそれぞれの「解釈」について対話を通して聴き合いながら「次につながるキーワード」を導き出す研究協議を行った。



小学部4年：生活単元学習

中学部1年：生活単元学習

高等部木工班：作業学習

講演では、金沢星稜大学柳川公三子氏から『なぜ、子どもの「内面」を見取るのか？－「令和の日本型学校教育」の構築を目指して－』のテーマの下、教育現場における「内面の見取り」や「授業改善」の重要性、また令和の日本型学校教育に求められる学びの在り方について御講演いただいた。



【御講演をされる柳川先生】

1 今、求められる授業とは？

現代の学校教育は、社会の変化に伴い大きな転換を求められている。AIやビッグデータの進展、新型コロナウイルスの影響などにより、社会は予測困難な時代へと移行した。このような背景から、学校教育は「個別最適な学び」と「協働的な学び」を通じて、生徒が自分の可能性を認識し、他者を尊重し、協働しながら課題を乗り越える力を育むことが重要とされている。その中で、学習者自身が主体的に考え、学び合うことを中心に据えた授業改善が求められている。特に、ICT活用を含む新しい教育手法が不可欠となり、これらの実現が授業研究の柱となっている。

2 今、求められる「内面の見取り」

「内面の見取り」とは、児童生徒一人一人の成長や学びの過程を深く理解し、適切に支援するために必要不可欠である。従来の画一的な教育の限界が顕著になる中で、生徒が自己調整し、自ら課題を見つけて解決できる力を育む必要がある。これは、子どもの内面の成長過程や学びのつまづきを捉え、それに応じた柔軟な指導を行うことによって実現される。また、学びを「指導されるもの」から「自ら作り出すもの」へと変える視点が求められている。この見取りの視点は、教育の質を向上させる上で重要なものである。

3 「協働的な学び」を通じた授業者自身の「個別最適な学び」

授業者自身もまた、児童生徒との協働的な学びを通じて成長していくことが求められている。他校の事例では、生徒たちが地域の農園と協力してバナナマフィンの製造販売に取り組む中で、主体的に課題を見付け、意欲的に改善を重ねていった。このプロセスで生徒たちは、地域社会との関わりを深め、多様な価値観に触れる中で自己肯定感や意欲を育んだ。同時に、授業者も生徒の成長を見取り、共に学ぶ中で自らの教育実践を深めることができた。こうした事例は、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の相乗効果を示しており、教育現場全体で共有すべき重要な視点と言える。

これら3点を通じ、教育の根幹にある「学び続ける力」を児童生徒だけでなく、授業者自身も実践し、教育の質を向上させていくことが求められている。

小学部 第4学年 生活単元学習 学習指導案

日 時：令和6年12月5日（木）

10:00～10:45

場 所：小学部4年教室

授業者：渡辺舞子（T1）、小玉美貴子（T2）

山田玲子（T3）

1 単元名

できるんジャー！やるんジャー！⑤ ～クリスマスパーティーでピザを振る舞おう～

2 目 標

- (1) クリスマスピザのソースやトッピングする食材を大まかに分類し、調べたことをまねして食材をクリスマスに合う形にアレンジしたり、タブレット端末を使ってチラシをつくったりする。【知・技】
- (2) アンケートや友達の意見から自分の意見をまとめてピザのトッピングを決めたり、選んだ実物を指し示して思いを伝えたりして発表する。【思・判・表】
- (3) 学部の友達に振る舞うことを楽しみに、当日までの準備を友達と協力して進めたり、学部の友達に自信をもってピザを紹介したりする。【学】

3 児童と単元

(1) 児童について

本学習グループは、男子3名、女子1名の計4名で構成されている。3名は言葉でコミュニケーションをとり、全体指示を聞いて動いたり、ルールや手順などを理解して活動に参加したりする。1名は、言葉の指示のみで理解することは難しいが、慣れている活動であれば写真や動画を手掛かりに活動に見通しをもつことができる。全員、同じ学年の友達と関わることが好きで、学習中は、声を掛け合って分担した活動に取り組めるようになってきた。一方で、他学年の友達にはどのように関わってよいか分からず、自分から話し掛けることは少ない。また、自分に自信のない児童が多く、意見を求められると黙ってしまったり、友達と同じことを話したりすることがある。児童の発言を肯定しながら話しやすい環境を作り、自由に自己表現する場を設けてきたことで、少しずつ自分なりの言動で表現しようとする姿が見られるようになってきている。食べ物への関心は高く、食材の種類や分類などの知識は十分ではないものの、調理活動に喜んで取り組む。タブレット端末は動画視聴、画像保存の操作方法が分かる程度で、活用できる場面が限られている。

(2) 単元について

本単元では、ピザづくりを活動の中心とし、タブレット端末を使用した調べ学習や調理活動、アンケート調査、試作・試食などを行う。ピザはトッピングの種類が豊富で、自分の好きな食材を見付けやすいだけでなく、新しい食材のおいしさを知る機会にもつなげやすい。また、調理工程も分かりやすく、食材が変わっても同様の手順で調理を行えるため、食材の味や特徴に関する知識を深めることができる。

これまでは、宿泊学習で自分たちのオリジナルピザを作ることを目指し、保護者や職員のアンケートで出た食材でピザを作り食べ比べる活動を行ってきた。結団式では学部の友達や先生に、宿泊学習当日は外部講師や施設の職員など、地域の人たちにオリジナルピザを振る舞った。その際に、これまでの学習過程や食材について自分たちから進んで紹介する姿が見られ、学習を通しておいしいピザを作ることへの自信が高まっていることが伺えた。また、宿泊学習ではピザ専門店でピザを食べ、よりおいしいピザを作ることへの意欲を高めることができた。事後学習では、専門店で食べたピザについて調べたり、トッピングされていた食材を食べたりして、これまであまり口にしたことのないピザに合う食材についても知ることができた。

本単元では、クリスマスパーティーで学部の友達や職員に振る舞うピザを決めて振る舞う。ピザのトッピングは、学部の友達や職員のアンケートに書かれていた食材と、ピザ専門店で知った食材の中から選ぶ。トッピングの組み合わせを考え、試作・試食を繰り返して自分のおすすめピザを決めて友達に紹介し、最後には、多数決をしてクリスマスパーティーで振る舞うピザを2つ決める。また、これまで学んできたタブレット端末の利用方法に加え、アプリを使ったチラシの作り方を覚えることを期待している。自分でトッピングの組み合わせを考えて探求していく楽しさや、友達の意見を取り入れてよりおいしいピザを作っていく楽しさを味わいながら自信をもって自分の考えを発表する力を育みたいと考え、本単元を設定した。

(3) 指導について（児童の「主体的に学びに向かう姿」を引き出す工夫）

- ・発言しやすい環境を作るために、肯定的に応答したり、児童が安心するような言葉掛けをしたりする。また、活発な発言を促すために、「詳しく話す」ことを本単元だけでなく、日常生活の中でも頑張ることとして確認し、学校生活全般を通して環境づくりを行う。①
- ・学習に意欲をもって参加できるように、児童の得意なことや好きなことを学習活動や教材に取り入れ、役割を設定したりする。②
- ・試食時に児童から出たキーワードを付箋紙に書いてそれぞれの「つぶやきメモ」に貼り、発表時に使用する。また、学習の積み重ねが分かるように、発表で出たキーワードは「観点カード」にまとめていく。観点は「味」、「食感」、「香り」「その他」とし、クリスマスに合う食材のアレンジを考える際は、観点到「クリスマスらしさ」を加える。⑤
- ・「おいしくつくるために」という視点で、試作・試食を重ねていけるように、同日に試作を繰り返せるよう学習を計画したり、友達のおすすめピザを試食する場面を設けたりする。また、試作の流れが分かるように、「マイレシピ」を準備する。⑥
- ・全員が見通しをもって活動に向かえるように、板書でイラストや写真を提示したり、同じ流れで学習を積み重ねたりする。③
- ・自分たちで調べ学習を進めていけるように、既習事項をまとめた「できるんジャー！やるんジャー！タブレットそうさ」表を準備し、迷ったときに活用を勧める。③
- ・クリスマスを意識できるように、クリスマスの音楽を流したり、クリスマスの飾りを準備したりする。①

※丸数字は単元構想シート裏面参照

4 指導計画（総時数49時間 本時 24／49）

小単元名・主な学習活動	時数	目標	扱う教科の内容
(1) クリスマスパーティーで振る舞うピザを決めよう ・アンケート調べ ・食材の検索、画像保存、分類 ・試作、試食①（計3回） ・自分のおすすめピザの紹介 ・1つ目のピザの決定 ・試作、試食②（計3回） ・自分のおすすめピザの紹介 ・2つ目のピザの決定	24 本時 (24/24)	・アンケートに書かれている食材を調べて画像を保存したり、食材を野菜、果物、お菓子等に分類したりする。【知・技】 ・アンケートから2種類の食材を決めて試作・試食し、ピザに合う組み合わせを考える【思・判・表】【学】 ・友達のおすすめピザと自分のおすすめピザを食べ比べ、よりピザがおいしくなる食材を考えて、次の食材の組み合わせを決める。【思・判・表】【学】 ・「味」「食感」「香り」などの観点を手掛かりに自分のおすすめピザを紹介したり、選んだ理由を発表したりする。【思・判・表】【学】	生活(基本的 生活習慣、安全 きまり、人との 関わり) 国語 算数(図形) 図画工作(表 現)
(2) クリスマスに合うトッピングを決めよう ・クリスマスのトッピング調べ ・食材のアレンジ ・自分のおすすめするアレンジトッピングの紹介 ・トッピングのアレンジの仕方の決定	12	・決まった食材を基に、クリスマストッピングを調べ、調べたやり方をまねして教師と一緒に食材をアレンジする。【知・技】 ・自分のおすすめするクリスマストッピングを友達に紹介し、使用した調理器具や調理工程、おすすめする理由を紹介する。【思・判・表】【学】 ・実際にピザを焼き、焼いた後の見た目から、「クリスマスだと分かる」「もらった相手が喜ぶ」という観点からトッピングのアレンジの仕方を決める。【思・判・表】【学】	生活(基本的 生活習慣、安全 きまり、遊び、 人との関わり) 国語 算数(図形) 図画工作(表 現)
(3) メニュー表をつくろう ・メニュー表づくり、渡し	3	・レイアウトや文字の大きさを友達と一緒に考え、自分たちが保存した画像を使ってアプリでメニュー表を作成する。【知・技】【思・判・表】【学】	算数(図形) 図画工作(表 現)
(4) さあ、クリスマスパーティーで振る舞おう！ ・ピザの紹介の仕方や渡し方を考えて練習 ・本番！振る舞い！	8	・振る舞うピザのおすすめポイントを考えたり、紹介する際に使う写真を決めたりする。【知・技】【思・判・表】【学】 ・友達と協力してピザを作ったり、ピザを渡す際の渡し方や表情、クリスマスにちなんだフレーズを考えたりする。【思・判・表】【学】	生活(人との 関わり予定) 国語 算数(数と計 算) 音楽(鑑賞)
(5) クリスマスパーティー大成功！ ・振り返り	2	・写真や動画を見て、学部の友達や先生の様子を見たり、自分たちの振る舞い方を振り返ったりする。【思・判・表】【学】	生活(人との 関わり) 国語

5 本時の計画

(1) 全体の目標

- ・自分がおいしいと思ったピザを一つ選んだり、観点を手掛かりに選んだ理由を発表したりする。【思・判・表】

(2) 個別の実態と本時の目標

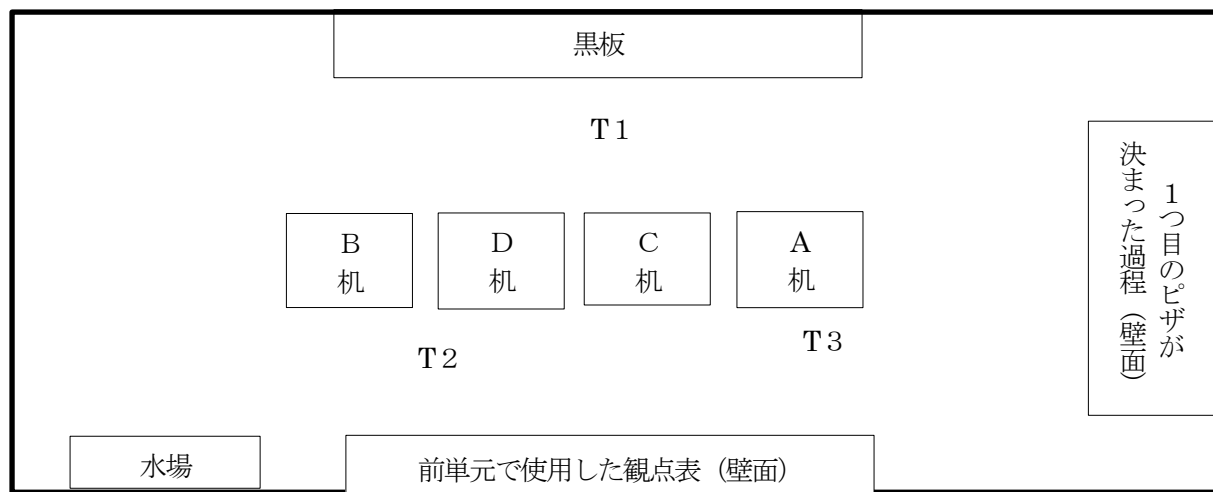
児童名	実 態	本時の目標	手立て
A	興味・関心の高いものは写真や実物を指差して正確に選ぶことができる。その他は写真を提示すると指差すが、自分の気持ちと一致していないことも多い。「おいしいですか」と聞かれると苦手な物でも手を頬に当て、おいしいポーズをとることがある。食べたくない食材の皿は遠ざけるなどするが、気に入ると一口食べた後でおかわりすることもある。	・4つの中から自分の好きなピザを一つ選んだり、自分の気持ちをジェスチャーで伝えたりする。	・好きなピザを選ぶように、児童の好きな食材を用意したり、指差しや発声でピザを選んだ直後にいいねシールを貼ったりする。 ・食べたくない様子が見られた際は、教師が「いない時は」と言葉掛けし、ジェスチャーするよう促す。
B	教師の指差しに合わせて平仮名を拾い読みできるが、読み上げても単語として理解することが難しい。日常的には言葉の指示や記憶、イラスト、周りの様子を手掛かりに見通しをもっている。自信がなく、友達を選んだことをまねして選ぶことがよくある。発表では、選んだ理由を「おいしいです」など簡単な言葉で話したり、自信のなさから知っている情報を単語で次々と話したりすることもあるが、試食時に思わず出た言葉を教師が肯定すると発表でも同じ言葉を使って話せるようになってきている。	・試食時に、観点を手掛かりに感想を話し、その言葉を使って理由を発表する。	・試食前に観点を強調して読んだり、試食中に教師が観点に沿った質問をしたりする。 ・自信をもって話せるように、試食時に児童から出た発言を肯定したり、児童が話した言葉を付箋紙に書いて「つぶやきメモ」に貼り、発表前に一緒に書かれた言葉を確認したりする。 ・発表時に焦っている様子が見られた際は、児童の発言を肯定したり、「つぶやきメモ」の言葉を一緒に拾い読みしたりする。
C	思ったことを的確に話すことができるが、発表場面では、思いついたまま細かく話し過ぎてしまったり、集中力の低下により簡単な言葉で発表を終わらせようとしたりすることがある。また、自分から友達を助けようとしたり、困っている友達にアドバイスしたりできるが、友達の意見を否定したり、自分の意見が一番よいということを主張したりすることがある。	・話したいことに優先順位をつけ、選んだ理由を観点に触れながら発表する。 ・教師の言葉掛けをうけ、友達の意見のよいところを見付ける。	・観点を基に考えていけるように、試食前に観点カードを指し示したり、出てきた発言に対して観点名を話して関連付けたりする。 ・話したいことに優先順位をつけられるように、「つぶやきメモ」に番号を書いておく。 ・友達の意見を肯定的に捉えられるように、「素敵な言葉が出てきたね」等と言言葉掛けして本児の気付きや発言を待つ。
D	複数の選択肢の中から1つを選んだり、書いてあることを読んだりすることはできるが、突然理由を聞かれると自信のなさから「分からない」と話したり、黙ってしまったたりすることが多い。試食時はあまり感想が出てこないが、時間を設けるとじっくりと考え、自分の意見を話す。また、出た意見を観点ごとに分類できるようになってきている。まだ慣れない相手や環境だと、緊張からうまく自分の気持ちを話せないことがある。	・つぶやきメモに書いてある言葉に加えて、観点を手掛かりに、選んだ理由をもう1つ発表する。	・試食後に観点を確認しながら考える時間を設け、つぶやきメモに書いてあること以外にも話してほしいことを伝える。 ・考えている際は、話し始めるまで待ち、話し始めたら肯定的な言葉で相づちを打つ。

(3) 学習過程

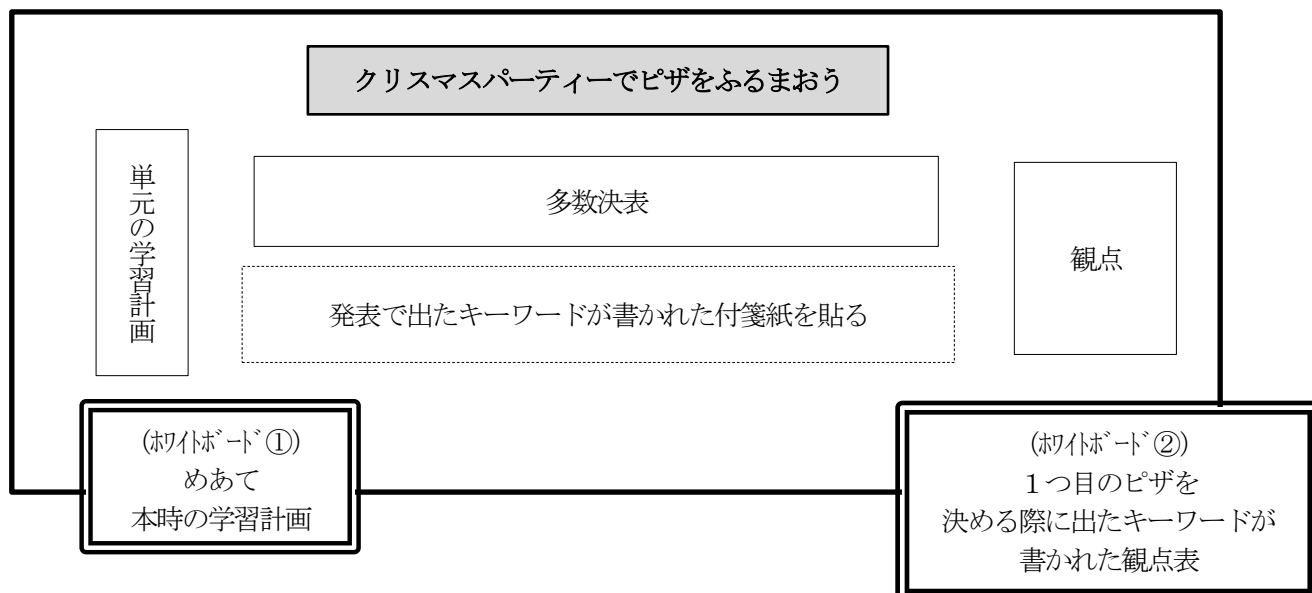
時間	学習活動	手立て・指導上の留意点
	※ 事前に、児童それぞれが決めたおすすめ食材を餃子の皮にトッピングし、ホットプレートに並べている。	
5	1 本時の学習内容を知る。 めあて ・クリスマスパーティーでふるまいたいピザを1つえらぶ。 ・りゅうをくわしくはなす。	・本時の活動が分かるように、イラストや写真を用意する。 ・めあてについて具体的にイメージできるように、「理由を詳しく話す」具体的な姿について発問し、児童から出てきた言葉をめあてに書き入れる。 ・観点は「味」、「食感」、「香り」、「その他」とし、付箋紙を貼る表を用意し、これまでの学習の積み重ねが分かるようにする。 ・(A) がめあてを具体的にイメージできるように、写真やイラストを準備する。
5	2 マイレシピを使っておすすめピザを紹介する。	・これまでの試作の流れやおすすめピザの食材が分かる「マイレシピ」を一人一枚準備する。 ・おすすめする理由を紹介できるように、前時の試食の際に出たキーワードを付箋紙に書き、マイレシピに貼る。
15	3 ピザを試食し、食べ比べる。 ① (A) が食べる ② (A) が選ぶ ③他の児童が食べる	・(A) がどのピザがおいしいと思ったのか他の児童が考えられるように、食べている様子を見る場面を設定する。 ・観点を意識しながら試食ができるように、試食前に観点を指し示して確認したり、試食中に児童から出てきた感想と観点名を関連付けたりする。 ・(B・C・D) 理由を発表する際に、自信をもって発表できるように、食べているときに児童から出た観点に関するキーワードを付箋紙に書いて「つぶやきメモ」に貼ったり、発言を肯定したりする。 ・(A) がピザを「もう食べない」と伝えた際は、その後の学習にも意欲をもって参加できるよう、友達や参観者にピザを配ったり、多数決で使用するくす玉を作ったりする等役割を準備する。 ・T 3は (A) が活動に見通しをもてるように、写真や実物を提示し、活動毎に確認する。
15	4 クリスマスパーティーで振る舞うピザを1つ選び、理由を発表する。 ①児童が発表 ②参観者数名が発表 ③多数決で1つ決める	・めあてを意識して発表できるように、再度めあてを確認する。 ・自信をもって理由を話したり、整理して話したりできるように、「つぶやきメモ」を見ながら、話す内容を考える時間を設ける。 ・発表で出たキーワードが分かるように「つぶやきメモ」から発表で使った付箋紙絵を剥がして黒板に貼ったり、T 2が付箋紙に書いたりする。 ・クリスマスパーティーで振る舞うピザを1つ選ぶことができるように、「いいねシール」を準備する。 ・出てきたキーワードがどの観点に当てはまっているか分かるように、キーワードが書かれた付箋紙に観点マークを貼る。 ・多数決が成立するように、発表する参観者の人数を調整する。 ・多数決でクリスマスパーティーで振る舞うピザが決まったことを喜び合えるように、くす玉を割る場面を設定する。
5	5 本時の学習を振り返る。	・めあてを達成したことが分かるように、発表で出てきたキーワードを読み上げたり、花丸を付けたりする。 ・学習計画表を見ながらクリスマスパーティーまでの日程や活動を確認し、次の学習への意欲を高める。

※波下線は抽出児童に対する手立て

(4) 配置図、座席表

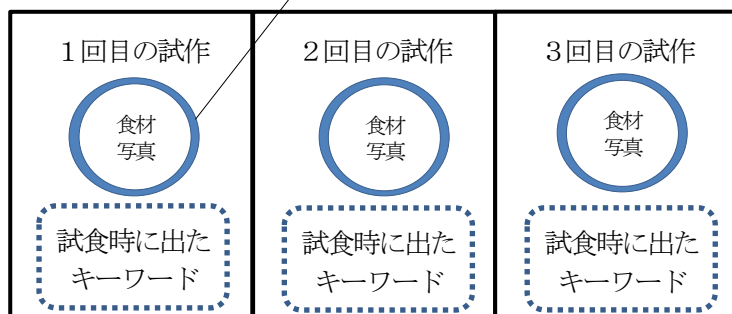


<板書計画>

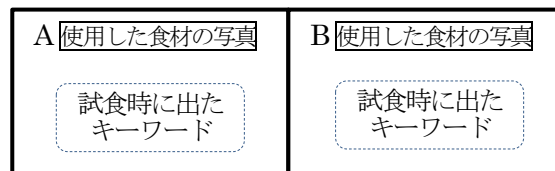


<マイレシピ>

ピザ生地の写真



<つぶやきメモ>



(5) 評価

- ・児童：自分がおいしいと思ったピザを選んだり、観点を手掛かりに選んだ理由を発表して自己表現したりできていたか。
- ・教師：児童が自分の気持ちを表現するための教師の働き掛けや雰囲気づくりは適切であったか。

児童名	本単元で目指す「主体的に学びに向かう姿」
A	・自分の好きな食材やピザを選んだり、選択をしたものを「おいしい」や「いらない」等のジェスチャーで伝えたりする姿③ ・学習やクリスマスパーティーに見通しをもったり、友達や先生に自分から進んでピザを届けたりする姿。③
B	・自分で食材の組み合わせを考え、試食して感じたことを自分の言葉で表現したり、これまで出た意見や友達の意見を参考にしながら自分の意見を発表したりする姿① ・大まかな分類が分かって食材を探したり、友達に聞きながらタブレット端末を使ってチラシを作ったりする姿③
C	・観点に沿って自分の考えを整理して友達に伝えたり、読む相手のことを考えて友達と協力してチラシを作ったりする姿① ・食材の味や食感の違いが分かって組み合わせを考えたり、友達の意見を自分の考えに反映してピザづくりに取り組んだりする姿④
D	・試食して感じたことを観点に沿って言葉で表現し、自信をもって発表する姿① ・タブレット端末を使ってクリスマストッピングについて調べてまねしたり、友達と協力しながらチラシを作ったりする姿③

※丸数字は関連する「主体的に学びに向かう姿」以下参照

	主体的に学びに向かう姿
①	学ぶこと（見ること、聞くこと、話すことなど）に前のめりになっている様子
②	自分を理解し、得意なことを生かして活動したり、苦手なことにも挑戦したりする様子
③	自分の役割ややるべきことが分かって取り組んでいる様子
④	最後まで諦めず、試行錯誤しながら活動に取り組んでいる様子
⑤	学習の良かった点や改善点を次の時間に試したり、他の学習場面や生活の中で生かそうとしていたりしている様子
⑥	他者と関わったりアドバイスを受け入れたりして、やってみようとする様子

令和6年度 小学部4年 生活単元学習 年間指導計画

【児童】4名

【指導者】渡辺舞子、小玉美貴子、山田玲子

【年間目標】

- (1) 調べ学習のやり方やメニュー表の作り方が分かってタブレットを操作したり、食材の特徴を理解して調理したりする。(知・技)
 - (2) 経験したことや調べたことから伝えたいことを考えて自分なりの言動で表現したり、アンケートを見て振る舞うピザを考えたりする。(思・判・表)
 - (3) 活動に見通しと期待感をもち、友達と一緒に進んで活動に取り組み、新しいことへ進んで挑戦する楽しさや自己表現する楽しさを味わいながら自信をつける。(学)
- (週時数 10 時間)

月	○単元名 ・主な指導内容	主な目標	扱う教科と (内容)	予定 時数	実施 時数
4	○4年生スタート ・プロフィールづくり ・Cさん歓迎会 ・学級目標づくり ・新転入生を迎える会、お花見	・買うものを多数決で決め、役割分担して買い物する。 ・役割分担表を見ながらペアの友達と準備片付けをしたり、係を進めたりする。	・算(数と計算) ・国 ・生(予定、金銭の扱い、役割)	20	30
5 6	※宿泊学習延期 ○できるんジャー!やるんジャー!①～宿泊学習～ ・日程、施設調べ学習 ・シャンプー動画作成 ・入浴練習(ホテルこまち温泉校外学習含) ・集団歩行練習(大森山動物園校外学習含) ・野外炊飯(グリーンサムガーデン校外学習含) ・布団畳み、髪結び方練習 ・結団式、振り返り	・タブレットで施設や調理方法、調理器具の正しい扱い方を検索して写真を保存し、友達に紹介したり、レシピや取扱表を作ったりする。 ・自分たちで作成した動画を見ながら髪や体を洗う練習を重ね、最小限の支援で入浴する。 ・約束や頑張ることを意識して活動に参加したり、日程やペアの友達が分かって行動したりする。 ・手順表を見たり、教えてもらったことを意識したりしながらピザとスープ、フルーチェを作る。	・生(基本的な生活習慣、予定、役割、安全、きまり、社会の仕組みと公共施設) ・算(数と計算、図形) ・国 ・音(表現) ・体(表現遊び) ・図(表現)	45	55
6 7	○できるんジャー!やるんジャー!②～お母さんたちに紹介しよう1～ ・ピザ、スープ、フルーチェづくり ・アンケート調査 ・食材の調べ学習 ・食材の形、切り方、味	・宿泊学習で作る予定だったピザを保護者に振る舞い、アンケートをとってピザがよりおいしくなるお母さんたちのおすすめ食材を知る。 ・お母さんたちおすすめ食材の調理法を調べ、食材の切り方や缶詰の開け方を知る。 ・ペアの友達と相談しながら役割を決め、ピザを作る。 ・ピザにのせた食材の中から自分の好きな食材や切り方を選ぶ。	・生(予定、役割、安全きまり) ・国 ・算(数と計算、図形) ・図(表現)	20	20
8 9	○できるんジャー!やるんジャー!③～宿泊学習でピザを作ろう～ ・先生方へピザを振る舞う ・アンケート調査 ・食材の調べ学習 ・食材の形、切り方、味	・振る舞う先生を決め、アプリでメニュー表を作って紹介したり、自分なりの言葉でおすすめポイントを紹介したりする。 ・先生たちからのアンケートを基に、新しい食材の調理法を調べ、ペアで役割分担して調理する。 ・食べた中から好きなピザを選び、自分なりの言葉で理由を話す。	・生(予定、役割、安全) ・国 ・算(数と計算、図形) ・図(表現)	30	40
	○速く走る練習をしよう ○学園祭を頑張ろう			30	46
【指導の評価】(単元・題材の妥当性、配当時数、指導計画の評価、有効だった学習活動や手立て、課題等) 宿泊学習の延期により、計画の大幅な変更を行った。宿泊学習の延期による子どもたちの意欲低下を避けるため、宿泊学習で作る予定だったメニューをPTAで保護者へ振る舞う計画を立てた。保護者に振る舞うことで、意欲的に活動に取り組むことができた。また、どの小单元でもタブレットを活用した調べ学習を設定したことで、3名の児童は画像保存やスクリーンショット、画面録画、エアドロップなど、基本的な操作を行えるようになった。自分で調べたことをテレビに映し、自分なりの言葉で紹介したり、説明したりする活動を繰り返したことで、ジェスチャーを使ったり、指さしたりしながら3～5文程度の説明ができるようになった。後期も日常生活の指導と関連をもたせながら自信をもって表現する力を育んでいきたい。					191

月	○单元名 ・主な指導内容	主な目標	扱う教科と（内容）	予定 時数	実施 時数
10	○できるんジャー！やるんジャー！③～宿泊学習でピザを作ろう～ ・調べ学習 ・食材の形、切り方、味 ・メニュー表づくり ・先生に振る舞う ・アンケート調査 ・宿泊学習で調理	・先生たちからのアンケートを基に、新しい食材の調理法を調べ、ペアで役割分担して調理する。 ・食べた中から自分の好きなピザを選び、観点に沿って理由を話したり、宿泊学習で作るピザを多数決で決めたりする。 ・ピザ専門店へ行き、ピザの種類を知ったり、ピザにのせるとおいしい新しい食材を知ったりする。	・生（基本的な生活習慣、予定、役割、安全きまり、社会の仕組みと公共施設、人との関わり） ・国 ・算（数と計算、図形） ・図（表現）	15	
10 11	○できるんジャー！やるんジャー！④～お店のピザを知ろう～ ・調べ学習 ・食材の形、切り方、味 ・メニュー表づくり	・ピザ専門店のメニューを調べ、画像を保存したり、トッピングされている食材を調べたりする。 ・ピザ専門店で食べたピザに載っていた食材の名前や味を知る。	・生（基本的な生活習慣、役割、安全きまり） ・国	10	
11 12	○できるんジャー！やるんジャー！⑤～クリスマスパーティーでピザを振る舞おう～ ・調べ学習 ・食材の形、切り方、味 ・メニュー表づくり ・友達への振る舞い ・アンケート調査 ・クリスマスパーティーで調理	・クリスマスピザのソースやトッピングする食材を大まかに分類し、調べたことをまねして食材をクリスマスに合う形にアレンジしたり、タブレット端末を使ってチラシをつくったりする。 ・アンケートや友達の意見から自分の意見をまとめてピザのトッピングを決めたり、選んだ実物を指し示して思いを伝えたりして発表する。 ・学部の友達に振る舞うことを楽しみに、当日までの準備を友達と協力して進めたり、学部の友達に自信をもってピザを紹介したりする。	・生（基本的な生活習慣、役割、安全きまり、遊び、人との関わり） ・国 ・算（数と計算、図形） ・図（表現） ・音（鑑賞）	49	
1 2	○できるんジャー！やるんジャー！⑥～お母さんたちに振る舞おう2～ ・PTAで調理 ・メニュー表、招待状づくり	・自分のおすすめのピザを決めたり、その理由を考えたりする。 ・自分のおすすめポイントを考え、アプリでメニュー表を作ったり、招待状を作ったりする。 ・役割分担したり、お母さんたちに教えたりしながら調理する。	・生（基本的な生活習慣、予定、役割、安全きまり、人との関わり） ・国 ・算（数と計算、図形） ・図（表現）	40	
3	○できるんジャー！やるんジャー！⑦～振り返ろう～ ・物語での振り返り	・1年間の頑張りを動画や写真で振り返る。 ・友達や先生にできるんジャー！やるんジャー！物語を見てもらい、1年間の頑張りを実感したり、達成感を味わったりする。	・国 ・生（基本的な生活習慣、予定、役割、安全きまり） ・音（表現） ・体（表現遊び）	21	
	○宿泊学習事前事後学習 ○6年生を送る会			35	
【指導の評価】（单元・題材の妥当性、配当時数、指導計画の評価、有効だった学習活動や手立て、課題等） ・ ・ ・				170	

中学部 第1学年 生活単元学習 学習指導案

日 時：令和6年12月5日（木）

10:00～10:50

場 所：中学部1年1組、1年2組教室

授業者：小松 良平（T1）、大高梨沙子（T2）

伊岡森真由（T3）、浅利 節子（T4）

兜森 宏征（T5）、信太 渉（T6）

1 単元名 潟上ツアーズ ～追分の魅力を伝えよう②～

2 目 標

- （1）追分周辺にある飲食店の取材を通して、地域の特色や魅力が分かる。【知・技】
- （2）地域の取材活動やグルメマップの編集作業を通して、必要な情報や伝えたい内容を考え、様々な形で表現しようとする。【思・判・表】
- （3）追分地域について興味・関心の幅を広げたり、地域の人と自ら関わろうとしたりする。【学】

3 生徒と単元

（1）生徒について

本学習グループは、男子8名、女子4名の計12名からなり、潟上市や秋田市、男鹿南秋地区など幅広い地域から通学しているため、潟上市の特色については道の駅などの観光施設を知っているにとどまる。コミュニケーションについては、自分の思いを一方的に伝えがちな生徒もいれば、思いを相手に伝えたり行動に移したりすることを躊躇しがちな生徒もいるなど、自身の思いの表出に関する実態には幅がある。

生徒たちは、潟上ツアーズの活動を通して、調べ学習に加え、地域に実際に出掛けて見学、体験することで興味を広げたり、取材先の従業員と関わる経験を重ねたりした。そして、本単元では、飲食店への取材やおすすめメニューの試食などを通して、「家族にも教えたい」や「次は別のメニューも食べたい」など、活動に期待感を感じる姿が見られるようになってきた。

（2）単元について

生徒たちは、本単元の導入において、学校から徒歩圏内である追分地区の街調べを行った。インターネットで調べたり、実際に出掛けたりしたことで、地域には住宅地や公園などの施設の他に飲食に関する店舗が点在していることが分かった。一方、学校周辺のクリーンアップを行った際、地域の方々に追分の飲食店について尋ねたところ「追分には何もない」や「私たちも知りたい」という声を聞いた生徒もいた。そこで、飲食店の取材を通して地域の魅力を発見するなど、生徒が地域との繋がりを深める手段としてグルメマップを作成することとした。

グルメマップ作成では、飲食店への取材を繰り返し行う。各店舗の魅力について知り、従業員の方と関わる中で多様な表現の仕方を学んだり、やり取りを楽しんだりする経験を積み重ねることができる。編集活動では、取材で得た情報を整理したり、手書きのイラストなどを挿入したりしながら飲食店の魅力を伝えるプレゼンテーション用スライドを作成する。生徒個々の得意な表現方法を生かすことで、生徒が感じた飲食店の魅力を取り入れたグルメマップの作成ができる。

そして次単元では、グルメマップを地域に配付し、自分たちの活動によって地域の方が喜んでくれるという達成感を実感する機会にしたいと考え、本単元を設定した。

（3）指導について（生徒の「主体的に学びに向かう姿」を引き出す工夫）

- ・地域との結び付きを実感したり、客観的な意見や情報を基に学習したりできるよう、潟上市役所や潟上市商工会などの協力を得ながら活動する。⑥
- ・見通しをもって活動に取り組んだり、体験したことや感じたことを自ら工夫・修正したりしながら繰り返し活動に取り組むことができるよう、取材～編集活動の大まかな流れやグループ内での役割を固定する。③

- ・個人もしくはグループごとの意見や学習の成果を見比べたり、自分の思いを表現し、伝え合ったりできるよう、ICT 機器を有効に活用する。②

※丸数字は単元構想シート裏面参照

4 指導計画（総時数 68 時間 本時 36/68）

小单元名 ・主な学習活動	時数	目標	扱う教科の内容
(1) 追分にある飲食店のおすすめ情報を集めよう ・飲食店調べ（インターネット） ・アンケート作成・集計 ・アンケートの依頼・配付（学校職員、保護者、潟上市役所、潟上市商工会） ・アンケートの回収	10	・アンケートを行う意義や作り方が分かる。 ・取材先の情報を得るための質問や、より多くの回答を得るための宣伝方法を考え、アンケートを作成する。 ・自分の役割や取り組む内容を理解し、作成や依頼、配付に進んで取り組む。	国語 社会（産業と生活） 数学 美術
(2) 取材する飲食店を選ぼう ・アンケートの集計、整理 ・取材場所を選ぶ	2	・回収したアンケートを整理、集計する。 ・回答数やおすすめの情報などの様々な条件をふまえて、取材する候補店を選ぶ。	国語 社会（産業と生活） 数学
(3) 取材をしよう ・取材の準備（インタビューの準備、対象メニュー調べ、試食） ・取材（インタビュー、撮影、商品の購入、試食） ・編集作業（必要な情報や素材選び、取材先の紹介スライド作成） ※以上3つの活動を飲食店ごとに繰り返し行う。	44 本時 24/44	・取材の仕方や話題の広げ方、取材先の情報を記録する方法を知る。 ・取材先の魅力を伝えるための内容を考え、よりよい方法を用いて表現したりする。 ・取材を繰り返す中で、役割を理解し、進んで取り組む。	国語 社会（産業と生活） 美術
(4) グルメマップを完成させよう ・マップのレイアウトの相談 ・紹介スライドの修正 ・完成披露	8	・作成したマップや紹介スライドを見直し、必要な情報を整理する。 ・よりよい内容にするため、校内の職員や他の生徒に見てもらい、意見をもらう。	国語 社会（産業と生活） 職業・家庭（家族・家庭生活）

5 本時の計画

(1) 全体の目標

- 取材で分かったことを振り返りながら、取材先のおすすめの情報や紹介したい内容について得意な方法を用いて表現する。【知・技】【思・判・表】

(2) 個別の実態と本時の目標

生徒名	実 態	本時の目標	手立て
「パティスリー ハラタ」 グループ	A	- 話合いの場面で自ら発言することが少しずつ増えてきた。 - 友達の意見も聞き入れながらスライドのレイアウトや、挿入する文章を考えて作成している。	- 取材したことや感じた事を基に、メニューの概要についておすすめの情報を選び、文章で表す。 - 取材内容をまとめたメモや動画を見直す機会を随時設けたり、本人が想起しやすいような言葉を用いて発問したりする。
	D	- 挙手の頻度や発言の増加など、自分の意見を発表しようとする姿が増えてきている。 - 動画や取材メモを見返すことで、印象に残った言葉や感じた事について振り返ることができる。	- 取材で聞いたことや試食の感想を取り入れて、おすすめメニューの魅力を伝える言葉を考え、スライドに入力する。 - 試食の感想を参考に考えられるよう、感想をまとめた表を掲示する。 - 該当する感想を選べるように、幾つか選択肢として提示したり、並べ替えたりする。
	G	- 新しい活動や集団での学習などに苦手意識をもっている。 - 自分の考えをさりげなくつぶやいたり、友達の意見に対し的確な返答をしたりする。	- 試食の感想を基に、メニューの魅力が伝える言葉を考え、見やすさを考えてスライドに入力する。 - 試食の感想を幾つか組み合わせ文章を考えられるよう、感想をまとめた表を掲示したり、該当する感想を指差したりする。
	H	- 明瞭な発語はないが、表情や身振りで気持ちを伝えようとする。 「和菓子の遊山」の編集活動では、白抜ききの枠内に色を塗ったり写真を選んだりした。	- 撮影した画像の中からお店の外観や店内などの全容が分かる画像を選び、友達に送信する。 - より適当な画像を比較、選別できるよう、取材時に、同じ対象について複数パターンの画像を撮影する。
	J	- 絵を描いたり、歌を歌ったりするなど、興味があることに対して夢中で取り組む。 - 前回の「編集」の活動ではお店に関連するイラストを描く活動を行った。	- 取材先で見たものやお店の人とのやり取りを思い出し、イラストを描いたり商品名を書いたりする。 - 取材の様子を思い返しながらか作成を進められるよう、写真を提示する。 - お店の人の特徴や印象について、友達や教師と感想を伝えあう機会を設定する。
	E	- 粘土で感触遊びをしたり、紙ちぎりをしたりすることを好む。 - 発語はほぼないが、発声で教師を呼んだり、身振りで気持ちを伝えようとしたりする。	- スライドの「取材の感想」ページに挿入する、食品サンプルを作成する。 - 継続して活動に向かうことができるように、本人の好きな素材を使って作成をする。 - 作成のイメージや完成の見通しがもてるように、見本の写真を提示する。

「たまごの樹」グループ	I	- 思ったことを積極的に発言する。 - 取材内容を基に、文字のサイズや色、配置などのアイデアを自ら出してスライド作成に取り組んでいる。	友達とやり取りをしながら、取材した内容をまとめたりスライドのレイアウトを考えたりする。	一人で進めたり迷っていたりしたときに、友達と意見交換ができるように言葉掛けをする。
	L	- 友達や教師と会話することを好む。 - 自分の気持ちや経験を伝えようとする気持ちはあるが、内容を簡潔、正確に伝えづらい。	スライドの制作で、友達に自分の意見を伝えながら使用する写真を選んだり、文字の色やサイズを決めたりする。	友達から問い掛けられた際、応えに詰まっていたら教師が二択で質問するなどして仲介する。
	F	- 自分の好きなことや体験したことについて、教師や友達との会話を好む。 - 学習場面では発言をためらったり友達の様子を伺ったりしながら活動に取り組むことがある。	写真の配置やスライドの配色を考えながら、教師と一緒に取材内容をタブレット端末でまとめる。	スライドの仕上がりがイメージできるように、友達が作成したスライドを提示したり、教師と一緒に様々なパターンを試したりする時間を設ける。
	B	- 手先が器用で、切り絵をしたり、イラストを描いたりすることを好む。 - 印象に残ったことをつぶやいたり、自分の取り組みたいことを言葉で教師に伝えたりする。	取材先の動画や写真を見て、おすすめメニューや看板を模したイラストを描く。	個別のタブレット端末を準備し、教師と一緒に取材先の動画や写真を見て、メニューに注目する機会を設定する。
	C	- 発声は少ないが、平仮名ボードやタブレット端末に単語を打ち込んで教師に気持ちを伝える。 「〇〇さん好き」「名前は？」など友達に興味を持ち始めている。	友達からの依頼を受けて、原稿を見ながら取材先のメニューなどをラベルライターに打ち込む。	- 一人で活動を進められるように、操作に慣れているラベルライターを準備する。 - 友達と原稿を受け渡しする場面を設定する。
	K	- 発語はないが、日常的に使う教師の簡単な言葉を理解して行動したり、行動でやりたいことを表現したりする。 - 教師が手を添えることで一緒に活動することも増えてきている。	取材した店を思い出して、店にあった物を、粘土をこねたり、たたいたりして作る。	- やる事が分かるように、店や商品写真やスライドを印刷したものを提示し、教師と一緒に指差しながら制作物を確認する場面を設定する。 - 手を取って粘土を一緒にこねたり、見守ったりする。

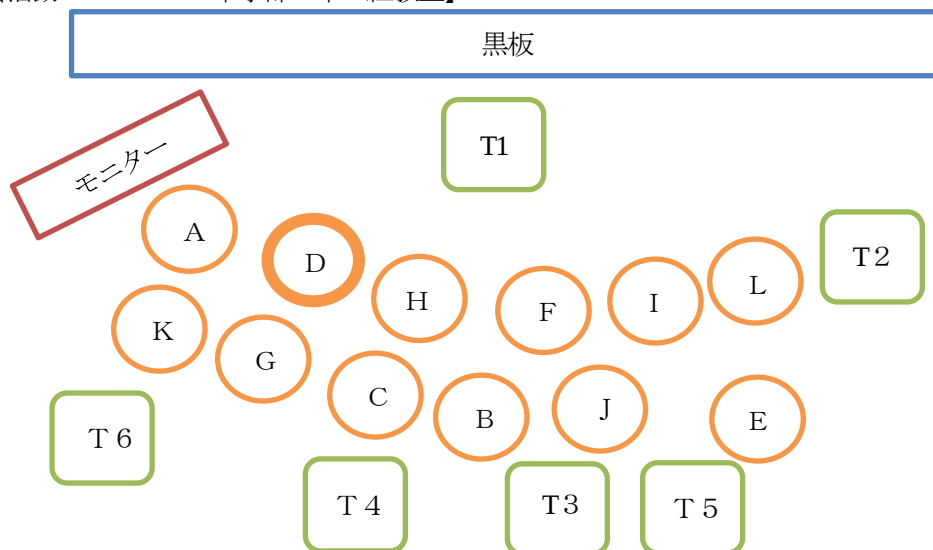
(3) 学習過程

時間	学習活動	手立て・指導上の留意点												
5	1 スローガンを言う。 掛け声：J	・授業に向けた意欲付けとなるよう、「渦上ツアーズ 未知の冒険へ Let's go!」のスローガンを全員で言う。												
	2 活動内容を確認する。	・本時の目指すゴールを確認できるよう、板書の「みた人が～」の箇所を指さす。												
	めあて みんなが考えた、「伝えたいこと」をもとにして、お店の紹介ページを作ろう。	・何を、どのように伝えたら、取材先やメニューの魅力が表現できるか発問するとともに、前時で使用したまとめの表を提示する。												
35	3 グループごとに編集活動を行う。	・活動内容が視覚的に分かるよう、イラストや写真を提示しながら説明する。												
	①前時までの過程を振り返り、個々の役割や活動を確認する。	・安心して意見交換ができるように、A、D、Gで編集活動を行う。												
	②おすすめ紹介スライドや素材の作成をする。	・スライドの完成イメージや係分担が分かるように印刷した基本パターンをその都度確認する。												
	＜グルーピングと主な役割＞	・生徒自身の感想や取材先独自の話題をできるだけ取り上げられるように、取材メモや動画、写真を使って振り返る機会を繰り返し設ける。												
	<table border="1"> <tr> <td></td><td>Patisserie HARATA (1年1組)</td><td>たまごの樹 (1年2組)</td></tr> <tr> <td>コメント作成やスライドの編集</td><td>A、D、G (T1)</td><td>I、L、F (T2)</td></tr> <tr> <td>イラスト、メニュー作成</td><td>H、J (T3)</td><td>B、C (T4)</td></tr> <tr> <td>食品サンプル 模型作成</td><td>E (T5)</td><td>K (T6)</td></tr> </table>		Patisserie HARATA (1年1組)	たまごの樹 (1年2組)	コメント作成やスライドの編集	A、D、G (T1)	I、L、F (T2)	イラスト、メニュー作成	H、J (T3)	B、C (T4)	食品サンプル 模型作成	E (T5)	K (T6)	・おすすめの情報や紹介したい内容を整理して簡潔な文章で表現できるよう、試食した感想をまとめた表を移動式ホワイトボードに掲示し、都度活用する。
	Patisserie HARATA (1年1組)	たまごの樹 (1年2組)												
コメント作成やスライドの編集	A、D、G (T1)	I、L、F (T2)												
イラスト、メニュー作成	H、J (T3)	B、C (T4)												
食品サンプル 模型作成	E (T5)	K (T6)												
10	4 本時の学習を振り返る。 ・1年1組教室に集合する ・班ごとの報告 ・次時取り組むこと	・スライドや素材に関する感想を伝え合う機会を設ける。 ・生徒個々の取材先に対するイメージを膨らませることができるよう、つぶやきを復唱したり、具体的なエピソードを紹介したりする。												
		・それぞれの活動内容を発表できるよう、話型を示したり、作成物を紹介したりする。 ・次時取り組むことが分かりやすいように、本時の活動の続きや課題、やり残したことを確認する。												

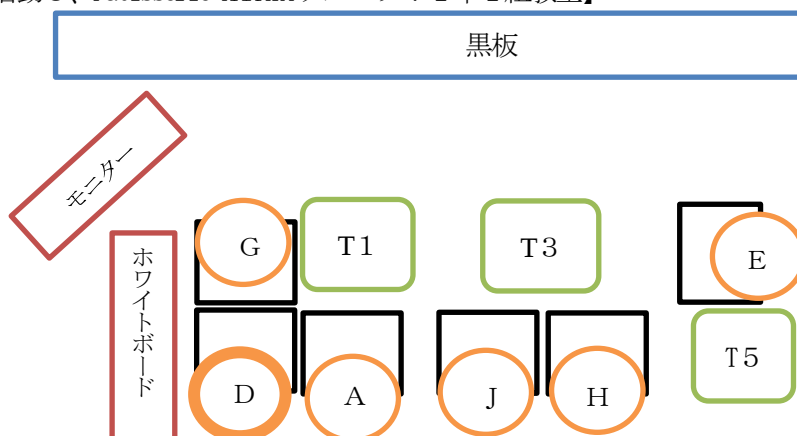
※波下線は抽出生徒に対する手立て

(4) 配置図、座席表

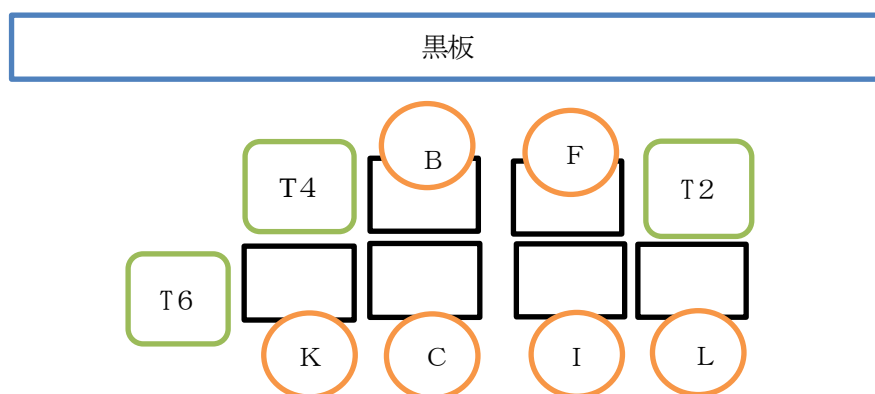
【学習活動1・2・5：中学部1年1組教室】



【学習活動3、Patisserie HARATA グループ：1年1組教室】



【学習活動3 たまごの樹グループ：1年2組教室】



(5) 評価

- ・生徒 取材で知ったことを思い出したり、感じたことについて意見を交わしたりする中で、個々が得意な方法を用いて取材先の魅力が伝わるおすすめの情報を表現しようとしていたか。
- ・教師 生徒が個々の役割や活動内容が分かり、取材時の様子や体験したことを基に取材先の魅力を想起したり見つけたりする活動に取り組むための手立てや働き掛けが講じられていたか。

生徒名	本単元で目指す「主体的に学びに向かう姿」
A	友達と意見のやり取りをする中で、自分の意見をためらわずに伝えようとする姿⑥
D	自分の考えを適切に表す表現の仕方を探しながら、友達と意見を交わし合う姿②
G	得意な制作活動の中で気持ちを安定させ、友達を気遣ったり、教師と言葉を交わしたりしながら取り組む姿②
H	自分の気持ちや感じた事を身振りや表情、五十音表などを用いて伝える姿③
J	活動に見通しをもち、自分の気持ちや行動を様々な方法で表現しようとする姿③
E	物の受け渡しで友達と関わったりする姿③
I	友達の話の聞いたり、周囲の意見に耳を傾けたりする中で、自分の考えを深めたり、新たに発案したりする姿⑥
L	自分の感じた事を言葉や表情を用いて表現し、教師や友達の話とのやり取りを楽しむ姿⑥
F	繰り返しの活動の中で見通しをもち、友達や教師に気持ちを伝えながら活動に取り組む姿③
B	自分のやることが分かり、自分で色や形を選択しながら時間いっぱい取り組む姿③
C	タブレット端末のキーボードで言葉や文章を入力したり、平仮名ボードを使って教師や友達に気持ちを伝えたりする姿②
K	自分の役割が分かり、教師とやり取りしながら継続して活動に向かう姿③

※丸数字は関連する「主体的に学びに向かう姿」以下参照

	主体的に学びに向かう姿
①	学ぶこと（見ること、聞くこと、話すことなど）に前のめりになっている様子
②	自分を理解し、得意なことを生かして活動したり、苦手なことにも挑戦したりする様子
③	自分の役割ややるべきことが分かって取り組んでいる様子
④	最後まで諦めず、試行錯誤しながら活動に取り組んでいる様子
⑤	学習の良かった点や改善点を次の時間に試したり、他の学習場面や生活の中で生かそうとしていたりしている様子
⑥	他者と関わったりアドバイスを受け入れたりして、やってみようとする様子

令和6年度 中学部1年 生活単元学習 年間指導計画					
【生徒】12名					
【指導者】小松良平、伊岡森真由、浅利節子、大高梨沙子、信太渉、兜森宏征					
【年間目標】 (1) 自分たちの生活や地域文化に関することに興味・関心をもち、必要な知識・技術の習得、望ましい習慣の形成を図る。(知・技) (2) 活動に取り組む中で疑問や驚きに気付き、見たことや感じたことについて自分の考えを整理したり、伝えあったりする。(思・判・表) (3) 自らの生活を振り返り、より良くするために進んで取り組んだり周囲と関わろうとしたりする。(学) (週時数8時間)					

月	○題材・単元名 ・主な指導内容	主な目標	扱う教科と(内容)	予定 時数	実施 時数
4	○Let's go 中1 ・掲示物作成(プロフィール、学年目標、係活動) ・校内散策 ・環境整備	・中学部の生活に見通しや期待感をもつ。 ・自分について紹介する。 ・協力して教室環境を整えたり、目標を考えたりする。	国語 社会(社会参加ときまり) 美術(表現)	22	22
5	○渦上ツアーズ ・観光施設・祭典、文化 ・特産品	・観光マップを基に渦上市の名所や名産品を知る。 ・興味をもったことについて、言葉や画像を用いて紹介したり、表現したりする。	国語 社会(公共施設と制度、産業と生活) 職業・家庭(家族・家庭生活、消費生活・環境)	32	36
6	・校外学習(道の駅)				
6	○校内実習を終えて ・校内実習の感想 ・振り返りと次回に向けて	・校内実習の成果と課題について、感じたことを伝え合い、思いや考えを共有する。 ・日常生活や次回に向けて目標をもって取り組もうとする。	国語 保健体育(保健) 職業・家庭(家族・家庭生活)	4	4
	○宿泊学習に行こう ・日程やグループ ・活動内容 ・結団式、報告式に向けて	・学習の日程や活動内容が分かる。 ・安全を心掛け、協力して最後まで取り組む。	国語 社会(公共施設と制度) 職業・家庭(家族・家庭生活、衣食住の生活)	22	20
7	○渦上ツアーズ～追分を歩こう～ ・追分地区の街歩き ・マップ作り ・追分地区のおすすめポイント	・調べ学習の手順が分かる。 ・追分地区を散策し、興味があるお店や場所を見付ける。 ・気に入った場所の魅力が伝わるような構成を考えて、マップを作成する。	国語 社会(産業と生活) 職業・家庭(家族・家庭生活、衣食住の生活)	16	16
	○1学期の振り返りと夏休みの生活 ・1学期の振り返り ・夏休みの生活と目標	・1学期を振り返り、自己の成長を実感する。 ・夏休み中の生活や学習の目標を決める。	国語 職業・家庭(家族・家庭生活、衣食住の生活)	2	2
8	○渦上ツアーズ～追分の魅力を伝えよう①～ ・グルメマップって何? ・取材って何? ・アナウンサーに学ぼう	・グルメマップを作成する為の大まかな手順や必要な事が分かる。 ・取材活動をするために心がけておきたいことが分かり、進んで取り組む。	国語 社会(産業と生活) 美術	36	28
9					
9	○学園祭に向けて ・ミュージカルの概要と配役 ・せりふと演技 ・ダンス ・歌	・アラジンのあらすじ、配役や一緒に演じる人が分かる。 ・よい演技を目指し、工夫したり課題を修正したりする。 ・成功を目指して、友達と協力したり、最後まで粘り強く取り組んだりする。	国語 音楽 保健体育	10	37

【指導の評価】(単元・題材の妥当性、配当時数、指導計画の評価、有効だった学習活動や手立て、課題等) ・12名の内、半数が地域の小学校からの入学者だったので、学校環境への適応に時間を割いた。 ・中心的な単元として、潟上市を取り上げ、さらに追分地区に焦点を当てた。徒歩圏内なので、今後、繰り返し出向くことによる学習効果が期待される。 ・話し合い活動において、特定の生徒とのやり取りに偏ることがあった。発問の仕方や集団構成など、修正を加えながら進めていきたい。 ・市役所など地域の協力を得ながら取り組んでいるが、生徒が実感できる形で進めていきたい。	144	165
---	-----	-----

月	○題材・単元名 ・主な指導内容	主な目標	扱う教科と(内容)	予定 時数	実施 時数
10 11 12 1	○潟上ツアーズ～追分の魅力を伝えよう②～ ・アンケート作成 ・アンケートの依頼、配付 ・取材場所を選ぶ ・取材をしよう ・おすすめ紹介スライドの作成 ・グルメマップのレイアウト ・完成披露	・追分周辺にある飲食店の取材を通して、地域の特色や魅力が分かる。 ・地域の取材活動やグルメマップの編集作業を通して、必要な情報や伝えたい内容を考え、様々な形で表現しようとする。 ・追分地域について興味・関心の幅を広げたり、自ら関わったりしようとする。	国語 社会(産業と生活) 美術	68	
12	○高等部ってどんなところ ・中学部と高等部の違い ・高等部の見学 ・上級生から学ぶ ・今の自分に必要なこと	・時間割の比較を基に、中学部と高等部の違いに気付く。 ・高等部の授業を見学し、高等部の生活に興味をもつ。 ・現在できること、取り組みたいことについて考えたり発表したりする。	国語 社会(産業と生活) 職業・家庭(家族・家庭生活)	12	
12	○2学期の振り返りと冬休みの生活 ・2学期の振り返り ・冬休みの生活と目標	・2学期を振り返り、自己の成長を実感する。 ・冬休み中の生活や学習の目標を決める。	国語 職業・家庭(家族・家庭生活、衣食住の生活)	2	
2	○潟上ツアーズ～追分の魅力を伝えよう③～ ・グルメマップの配布先選び ・マップ配り(取材先や地域) ・校外学習(市役所)	・地域の人へ配付するときに必要なことや方法が分かる。 ・地域の魅力を発信するためにできることを考える。 ・活動をとおして、自身の変化について振り返る。	国語 社会(産業と生活) 職業・家庭(家族・家庭生活、衣食住の生活)	24	
	○3年生を送る会 ・日時や活動内容 ・係分担 ・会の運営	・日時や活動内容が分かる。 ・3年生への感謝の気持ちが伝わる方法を考える。 ・協力して会を運営する。	国語 職業・家庭(家族・家庭生活、衣食住の生活)	18	
3	○潟上ツアーズ～1年間を振り返って～	・一年間学んできた内容を振り返る。 ・学習の足跡が残る成果物やその詳しい内容について相談したり、試したりしながら友達と一緒に取り組む。	国語 社会(産業と生活) 職業・家庭(家族・家庭生活、衣食住の生活)	12	
	【指導の評価】(単元・題材の妥当性、配当時数、指導計画の評価、有効だった学習活動や手立て、課題等) ・ ・ ・ ・			136	

高等部 木工班 作業学習 学習指導案

日 時：令和6年12月5日（木）

10:00～10:50

場 所：木工室

授業者：熊地 勇太（T1）、加藤 麻美（T2）

石井 悟（T3）

1 題材名

道の駅てんのうでの販売に向けて～秋田杉の箸とデザイン箸の製作～

2 目 標

- (1) 箸製作に必要な機械や道具の正しい使い方、担当する作業工程の注意点や報告の仕方が分かり、安全に作業する。【知・技】
- (2) 道の駅てんのうでの接客を意識し、「相手に聞こえる声」「視線は相手の顔」「背筋を伸ばした姿勢」に気を付けて挨拶や報告をしながら作業する。【思・判・表】
- (3) チェックポイントや見本を基に製品の仕上がり具合を自分で確認するなど、自分の担当する工程や役割に責任をもち、仲間と協力して作業に取り組もうとする。【学】

3 生徒と題材

(1) 生徒について

本作業班は高等部1年生男子3名、2年生男子2名、3年生男子3名の計8名である。8名のうち2名は昨年度木工班の経験があり、他の6名は初めての所属である。作業学習に対して意欲的な生徒が多く、自分の担当する作業工程に責任をもって取り組む様子が見られている。作業学習における実態としては、ゆっくりではあるが丁寧に作業を進めることができる生徒、速さはあるが雑に作業をしてしまう生徒、その日の体調により作業の効率や量が大きく変わる生徒がいる。技術面に優れている生徒が多いが、挨拶の声が小さかったり、下を向いて報告したりする様子が見られる。挨拶や報告時の「聞こえる声」「視線」「姿勢」等の態度に関することは全員に共通する課題である。機械や道具の扱い方については、全員が自分で使用する物の名称や使い方を覚えて作業することができている。作業中は教師が言葉を掛ける場面も減ってきており、製品の規格を確認しながら自分たちで作業や準備、片付けを進めることが多くなってきた。全体的に作業工程や一日の流れをよく理解し、リーダーを中心に自分たちで考えながら行動できる場面が増えてきている。

(2) 題材について

本題材では、12月に行う道の駅てんのうでの販売に向けて秋田杉の箸の製作をする。秋田杉の箸の作業工程としては、加工（木材の製材、かんな掛け、溝堀り）、研磨（面取り、段削り、やすり掛け）、強度チェック、塗装等があり、全部で15の工程に分かれている。これまでの学習では秋田杉の箸の製作を主な活動としながら、新製品の企画会議を行い、生徒が木材に合う色や模様を考え、箸をデザインする活動を行った。2学期はこれまで製作していた秋田杉の箸に加え、生徒が考えたデザイン箸の製作も行っている。自分たちで考えたデザインを箸にすることで、より意欲的な態度で学習に臨むことができる。また、これまでの経験を生かしながら、生徒自身が主体的に行動し、各工程の注意点を気をつけたり、製品の仕上がり具合を自分で確認したりする力を更に育てることができると考えた。秋田杉の箸とデザイン箸の製作は、流れ作業で行うため、次の工程の仲間へ製品を受け渡す活動が必要になり、共に製作する連帯感や基本的なコミュニケーション能力も育てることができる。作業製品販売会に向けた活動では、製品の製作のみならず、製品のラッピング、ちらし作りなど、販売会に向けて仲間と役割分担し、協力して取り組む必要がある。また、販売では、直接お客様とやりとりする場面があるため、「相手に聞こえる声」「視線は相手の顔」「背筋を伸ばした姿勢」を意識して相手や状況に応じてやりとりする力が必要であり、題材を通して継続的に取り組むことができると考え、本題材を設定した。

(3) 指導について（生徒の「主体的に学びに向かう姿」を引き出す工夫）

- ・自分で作業を進めることができるように、箸の規格を明確に示し、生徒に合った治具を用意する。②
- ・自分で仕上がりを確認しながら作業ができるように見本を用意する。③
- ・自分たちで考えて行動できるように、工程ごとに入れ物を分けたり、工程順を記載したりする。③
- ・作業班全体の意欲が高まるように個人と全体の出来高表を準備する。④
- ・自分の役割が分かり、自信をもって作業や報、連、相ができるようにチェックポイントを示したり、繰り返し活動を設定したりする。③

※丸数字は単元構想シート裏面参照

4 指導計画（総時数50時間 本時41／50）

題材名 ・ 主な学習活動	時数	目標	扱う教科の内容
<本題材> ○道の駅てんのうの販売に向けて (1) 製品の製作	41 本時 41/50	・箸製作に必要な機械や道具の正しい使い方、担当する作業工程の注意点が分かり、安全に作業する。 【知・技】 ・道の駅てんのうでの接客販売を意識し、「相手に聞こえる声」「目線は相手の顔」「背筋を伸ばした姿勢」に気を付けて挨拶や報告をする。 【思・判・表】 ・チェックポイントや見本を基に製品の仕上がり具合を自分で確認するなど、自分の担当する工程や役割に責任をもち、仲間と協力して作業に取り組もうとする。【学】	国語 (聞くこと話すこと) 数学 (数と計算) 美術 (表現) 職業 (職業生活) 家庭 (衣食住の生活)
(2) 道の駅てんのうでの作業製品 販売会 ・販売準備 (ラッピング、ちらしの作成等、販売数チェック等)	2	・タブレット端末アプリ「POPKIT」の使い方が分かり、見やすさを考えながらちらしを制作する。 【知・技】【思・判・表】 ・ラッピングやちらしの作成など、友達と役割分担をしながら、協力して準備する。 【学】	美術 (表現) 職業 (職業生活)
・販売練習	1	・販売の流れが分かり、タブレット端末アプリ「販売レジ」を使って販売する。 【知・技】	国語 (聞くこと話すこと) 数学 (数と計算)
・販売会	4	・「相手に聞こえる声」「目線は相手の顔」「背筋を伸ばした姿勢」に気を付けて接客をする。 【思・判・表】 ・会計や袋詰めなど、友達と役割分担をしながら、協力して販売する。 【学】	職業 (職業生活) 家庭 (衣食住の生活)
・販売反省会	2	・元数から残数を引いて売れた数を計算したり、売れた数と価格を掛けて売り上げを計算したりする。 【知・技】	国語 (聞くこと話すこと) 数学 (数と計算) 家庭 (衣食住の生活)

6 本時の計画

(1) 全体の目標

- ・チェックポイントや見本を基に、製品の仕上がり具合を自分で確認しながら作業を進める。
【知・技】【学】
- ・周囲の状況に応じて、声の大きさを調整して報告する。【思・判・表】

(2) 個別の実態と本時の目標

生徒名	実 態	本時の目標	手立て
A	・自分で形を確認して、やすり掛けができるようになってきている。細かい作業を得意とし、自分の工程に責任をもち、黙々と取り組む。 ・報告の声が小さく聞こえないときがある。	・箸の持ち手や先端の形が2本とも同じになるようにやすり掛けをする。 ・相手に聞こえるように依頼や報告をする。	・自分で形を調整できるように、見本に寸法を記入し、調整の手掛かりとする。 ・人に聞こえる声の大きさが分かるように、その場で何度か練習する時間を設ける。
B	・自分で確認したり、友達と相談したりしながら作業を進めることができる。作業は丁寧でミスが少ない。 ・相手に聞こえる声で報告や相談ができる。	・2本の箸が同じ形になるようにやすり掛けをする。 ・相手との距離や話す位置を考えて相談や報告をする。	・箸の形を確認しながら作業できるように、目安として見本やチェックポイントを机の上に置く。 ・報告の際の気を付けるポイントを作業前に確認する。
C	・活動の流れが分かると自信をもって作業に取り組める。電子ノギスの使い方を覚えて使用できるようになってきた。 ・挨拶や報告の声の大きさや目線に課題があるが、少しずつ意識できてきている。	・箸の幅を自分で確認しながらかんな掛けをする。 ・相手に聞こえる声で報告をする。	・自分で作業を進めることができるように、箸の規格を視覚化し、表示が大きい電子ノギスを用意する。 ・人に聞こえる声の大きさが分かるように、聞こえない場合はその場で聞き直す。
D	・繰り返しの活動を行うことで自信をもち、自動かんなを使って製材ができるようになってきた。 ・声が小さく聞こえないときが多いが、目標として設定すると、意識しようとする。	・自動かんなのハンドルを自分で調整し、板の厚さが10mmになるまで削る。 ・声の大きさを考え、聞こえる声で報告をする。	・自分で調整できるように、ハンドル半回転で何mm、1回転で何mm削れるかを提示する。 ・声の大きさを自分で考えられるように、声が小さい場合には聞き返す。
E	・どの工程でも作業内容や準備物等を理解し、一人で作業を進めることができる。 ・ミスや迷うような場面があるときも自分で判断して報告や相談ができる。	・スピードや効率を考え、箸の幅を自分で確認しながらかんな掛けをする。 ・失敗した時に理由も含めて報告する。	・スピードや効率を考えられるように、治具を準備したり、チェックポイントを用意したりする。 ・失敗してしまった理由が分からない時は自分で考えられるようなヒントを出す。
F	・箸の状態を自分で確認しながら意欲的に作業できる。判断に迷うと動きを止めてしまう。 ・失敗したり、迷ったりした時などに相談することを苦手としている。	・塗り残しのないように確認しながら塗装する。 ・迷ったときや心配になったりしたときに自分から報告や相談をする。	・塗り残しがないように塗装の順番が見える場所に提示する。 ・作業の動きが止まっているときは近くで見守り、自分から相談が難しそうな場合には、「そういうときはどうしますか」と言葉を掛ける。

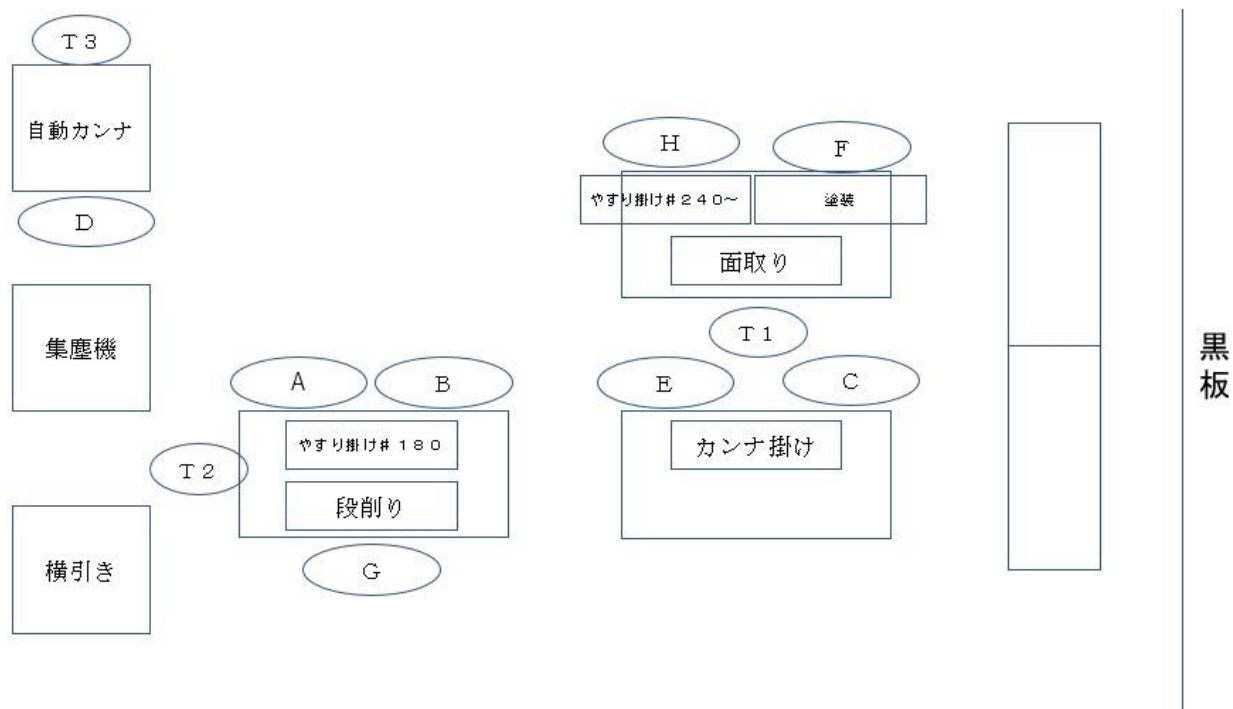
G	・気持ちが安定しているときは、安全に段削りができる。気持ちが不安定になると作業効率が落ち、工程通りに作業できなくなる。 ・安心できる環境では、自分から報告や相談ができる。	・のこぎりの刃の角度に気を付け、飾り細工を面に沿って安全に削る。 ・気持ちが不安定になってきたら、自分から担当の教師に「休憩します」と伝える。	・安全に面に沿って削ることができるように治具を準備する。 ・気持ちが不安定になっても報告できるように作業場所を整える。
H	・自分で見本を確認しながら意欲的に作業できる。常に見本を見ながら作業することが多く、1本の製作に時間がかかる。 ・自分から報告や相談ができるが、声が小さく聞こえないときがある。	・仕上がり具合やスピードを考えて、やすり掛けをする。 ・相手に聞こえる声や姿勢に気を付けて報告や相談をする。	・タイマーを準備し、どのようにやすり掛けをすればスピードが上がり、効率が良いかを教師と一緒に考える。 ・「もう一度報告してください」などと言葉を掛けて、どのくらいの声の大きさがよいか伝える。

(3) 学習過程

時間	学習活動	手立て・指導上の留意点																		
5	1 始めの会をする。 (1) 挨拶 (2) 教師の話 (3) 作業訓、5S環境 めあて ・仕上がり具合を自分で確認しながら作業する。 ・声の大きさを調整して報告する。	・生徒が中心となって進めることができるように、教師は進行の補助をしたり、必要に応じて助言したりする。 ・生徒が見通しをもって作業できるように、作業工程表を黒板に掲示する。 ・自分がどの工程を担当するかが分かるように、作業工程表の下に生徒の名前カードを貼る。 ・5 S環境の「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躰」の意味が分かるように、掲示物を工夫する。 ・めあてをより意識できるように、「仕上がりで確認の仕方」や「機械音があるときの声の大きさ」等を具体的に伝える。 ・販売に向けて意欲をもって作業できるように、日にちや進捗状況、目標数を確認する。																		
25	2 各工程に分かれて秋田杉の箸とデザイン箸を製作する。 <table><tr><th>生徒</th><th>担当する作業工程</th></tr><tr><td>A</td><td>やすり掛け＃180</td></tr><tr><td>B</td><td>やすり掛け＃180</td></tr><tr><td>C</td><td>かな掛け</td></tr><tr><td>D</td><td>製材</td></tr><tr><td>E</td><td>かな掛け</td></tr><tr><td>F</td><td>塗装</td></tr><tr><td>G</td><td>段削り</td></tr><tr><td>H</td><td>やすり掛け＃240～</td></tr></table>	生徒	担当する作業工程	A	やすり掛け＃180	B	やすり掛け＃180	C	かな掛け	D	製材	E	かな掛け	F	塗装	G	段削り	H	やすり掛け＃240～	・題材を通して、一貫した指導ができるように、各テーブル(各作業工程)の担当職員を決め、作業の模範を示したり、報告を受けたりする。 ・自分たちで考えて行動できるように、工程ごとに入れ物を分けたり、入れ物に工程順を記載したりする。 ・安全に気を付けて作業を進めることができるように、十分な作業スペースを設ける。 ・流れ作業のようにスムーズに次の工程の担当者に受け渡しができるように、生徒が作業する配置を工夫する。 ・安全に作業を進めたり、規格に沿った箸を作ったりすることができるように治具を用意する。 ・安定した力で作業ができるように作業台の高さを調整する。 ・自分で形を調整できるように見本を置いたり、チェックポイントを提示したりする。 ・自分の作業の進み具合が分かるように個々の出来高表を準備する。
生徒	担当する作業工程																			
A	やすり掛け＃180																			
B	やすり掛け＃180																			
C	かな掛け																			
D	製材																			
E	かな掛け																			
F	塗装																			
G	段削り																			
H	やすり掛け＃240～																			
10	3 後片付け、掃除をする。	・自分たちで役割分担して掃除ができるように、清掃順を固定し、手順を掲示する。																		
10	4 反省会をする。 (1) 日誌記入 (2) 本時の出来高や反省点の発表 (3) 挨拶	・目標について振り返り、自己評価することができるよう、日誌記入や発表の時間を設ける。 ・次の作業意欲につながるように、今日の出来高表を掲示する。																		

※波下線は抽出生徒に対する手立て

(4) 配置図、座席表



(5) 評価

- 【生徒】
- ・仕上がり具合を自分で確認しながら作業することができたか。
 - ・声の大きさを調整して報告することができたか。
- 【教師】
- ・チェックポイントや見本を基に製品の仕上がり具合を自分で確認しながら作業を進めるための教材・教具や支援は適切であったか。
 - ・周囲の状況に応じて、声の大きさを調整して報告するための支援は適切だったか。

生徒名	本単元で目指す「主体的に学びに向かう姿」
A	仕上がり具合を細かいところまで確かめ、仲間と相談しながら作業を進める姿。③
B	仕上がりを意識し、道具の使い方を考えたり、仲間と相談したりしながら作業を進める姿。④
C	箸の太さを自分で確認しながら作業を進める姿。③
D	自分の担当する工程に責任をもち、規格を自分で確認しながら作業する姿。③
E	スピードや効率を考えたり、自分で微調整したりしながら作業に取り組む姿。③
F	自分からすぐに報告や相談をする姿。⑥
G	効率よく、安全に気を付けながら見本通りに作業をする姿。③
H	見本を見て、自分で確認しながら作業をする姿。④

※丸数字は関連する「主体的に学びに向かう姿」以下参照

	主体的に学びに向かう姿
①	学ぶこと（見ること、聞くこと、話すことなど）に前のめりになっている様子
②	自分を理解し、得意なことを生かして活動したり、苦手なことにも挑戦したりする様子
③	自分の役割ややるべきことが分かって取り組んでいる様子
④	最後まで諦めず、試行錯誤しながら活動に取り組んでいる様子
⑤	学習の良かった点や改善点を次の時間に試したり、他の学習場面や生活の中で生かそうとして りしている様子
⑥	他者と関わったりアドバイスを受け入れたりして、やってみようとする様子

令和6年度 高等部 作業学習（木工班） 年間指導計画					
【生徒】（高1）3名 （高2）2名 （高3）3名					
【指導者】熊地勇太、佐々木憲一、加藤麻美、石井悟					
【年間目標】 （1）道具の使い方や作業工程を覚え、安全や効率を考えて作業を進める。（知・技） （2）挨拶や返事、報告、依頼等の基本的な作業態度を身に付ける。（思・判・表） （3）仲間と協力しながら、目標に向けて自分から進んで製作に取り組む。（学）					
（週時数 9.5 時間）					

月	○題材・単元名 ・主な指導内容	主な目標	扱う教科と（内容）	予定 時数	実施 時数
4 5	○オリエンテーション ・作業学習について ・働く意義 ・環境整備 ・清掃の仕方 ○工具類の扱い方 ・カンナ、治具、集じん機等の使い方 ・安全について	・作業学習の予定を知り、1年間の見通しをもつ。 ・始めの会や終わりの会の流れを覚える。 ・準備や片付け、清掃の仕方を知る。 ・カンナ等の使い方を知り、安全に作業する。	国語（聞くこと話すこと） 数学（数と計算） 職業（職業生活） 家庭（衣食住の生活）	10	42
6 7	○雲昌寺、道の駅販売に向けて ・製品製作 ・仕上げ ・ラッピング ・販売練習 ・納入 ・箸製作の企画会議 ・販売反省会	・「箸」の作業工程を知り、丁寧に作業する。 ・「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」等の接客態度を知る。 ・「箸」の工夫したい点や改善したい点について意見を話す。	国語（聞くこと話すこと） 数学（数と計算） 美術（表現） 職業（職業生活） 家庭（衣食住の生活）	40	32
8 9	○学園祭販売に向けて① ・製品製作 ・仕上げ ・ラッピング ・納入 ・販売練習 ・販売反省会 ・前期の振り返り	・「箸」の作業工程を覚え、丁寧に作業する。 ・「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」等の声の大きさに気を付けて販売練習をする。 ・前期の役割や頑張りについて振り返り、感想をタブレット端末にまとめる。	国語（聞くこと話すこと） 数学（数と計算） 美術（表現） 職業（情報機器の活用） 家庭（衣食住の生活）	40	44
【指導の評価】 （単元・題材の妥当性、配当時数、指導計画の評価、有効だった学習活動や手立て、課題等） ・5S環境の意味の理解ができていなかったため、意味を確認する機会を設定した。 ・工程ごとに入れ物を分け、工程順を記載することで自分で考えて行動したり、友達と相談して行動したりする姿につながった。 ・作業製品の企画会議を行い、生徒が木材に合う色や模様を考え、箸をデザインする新製品開発の活動を行った。自分たちで考えた物を箸にすることで、より意欲的な態度で学習に臨むことができ、生徒自身の主体的な行動が見られてきた。 ・教育相談時の体験で、体験生徒への説明や作り方を生徒が教えることで、自分が行っている工程への理解を深めることや作業意欲を高めることにつながった。 ・挨拶や報告時の「聞こえる声」「目線」「姿勢」等の態度に関することは全員に共通する課題である。手立ての工夫が必要である。				90	118

月	○題材・単元名 ・主な指導内容	主な目標	扱う教科と（内容）	予定 時数	実施 時数
10	○学園祭に向けて② ・製品製作 ・ラッピング ・チラシの作成 ・販売練習 ・販売会 ・販売反省会	・ 箸製作に必要な機械や道具の正しい使い方、担当する作業工程の注意点が分かり、安全に作業する。 ・ 「相手に聞こえる声」「目線は相手の顔」「背筋を伸ばした姿勢」に気を付けて挨拶や報告をする。 ・ 自分の担当する工程や役割に責任をもち、仲間と協力して作業に取り組もうとする。	国語（聞くこと話すこと） 数学（数と計算） 美術（表現） 職業（情報機器の活用） 家庭（衣食住の生活）	20	
10 11	○道の駅の販売に向けて ・製品製作 ・ラッピング ・チラシの作成 ・販売練習 ・販売会 ・納入 ・販売反省会	・ 箸製作に必要な機械や道具の正しい使い方、担当する作業工程の注意点が分かり、安全に作業する。 ・ 道の駅てんのうでの接客を意識し、「相手に聞こえる声」「目線は相手の顔」「背筋を伸ばした姿勢」に気を付けて挨拶や報告をする。 ・ チェックポイントや見本を基に製品の仕上がり具合を自分で確認するなど、自分の担当する工程や役割に責任をもち、仲間と協力して作業に取り組もうとする。	国語（聞くこと話すこと） 数学（数と計算） 美術（表現） 職業（職業生活） 家庭（衣食住の生活）	50	
12 1 2	○センター販売に向けて ・製品製作 ・ラッピング ・チラシの作成 ・販売練習 ・販売会 ・納入 ・販売反省会	・ 箸製作に必要な機械や道具の正しい使い方、担当する作業工程の注意点が分かり、安全に作業する。 ・ センター販売での接客を意識し、「相手に聞こえる声」「目線は相手の顔」「背筋を伸ばした姿勢」に気を付けて挨拶や報告をする。 ・ 製品の仕上がり具合を自分で確認するなど、自分の担当する工程や役割に責任をもち仲間と協力して作業に取り組もうとする。	国語（聞くこと話すこと） 数学（数と計算） 美術（表現） 職業（職業生活） 家庭（衣食住の生活）	30	
3	○年間のまとめ ・振り返り ・自分の成長（映像・製品から） ・環境整備	・ 一年間の頑張りや課題、今後の目標を考え、タブレット端末に自分でまとめる。 ・ 次年度のことを考えながら、環境整備や清掃をする。	国語（聞くこと話すこと） 数学（数と計算） 職業（職業生活） 家庭（衣食住の生活）	10	
【指導の評価】（単元・題材の妥当性、配当時数、指導計画の評価、有効だった学習活動や手立て、課題等）				90	

あとがき

主体的に学びに向かう姿を育てる授業づくり～教師による子どもの「見取り」に焦点を当てて～という研究主題の基、2年間の全校研究に取り組んできました。

子どもが主体的に学びに向かう姿とはどんな姿なのか確認することから始めました。子どもたち一人一人の主体的に学びに向かう姿は、授業や活動、場面によって違います。学習指導要領や本校のこれまでの研究成果に当たりながら、基本となる事柄をいくつかの共通する項目として整理することができました。

研究の推進に当たって、子どもの内面の見取り、見取りの解釈、子どもの姿に基づく授業づくりなど、金沢星稜大学の柳川公三子先生からたくさんの御示唆いただいた事柄をヒントに授業実践や授業研究会を積み重ねてきました。子どもの内面を見取ることや子どもの心の動きを捉えることは、特別支援学校の指導において最も基本であり、最も大事にしなければならないことの一つです。今回の研究では個に応じた指導や子どもの実態に基づいた授業づくりに取り組むことができました。12月には、2年間の研究経過や授業を提示し、公開研究会を開催できたことは大きな成果でありました。

最後に、本研究に対しまして、たくさんの具体的な御指導、御助言をいただきました金沢星稜大学柳川公三子氏、秋田県総合教育センター支援チーム主任指導主事島津憲司氏、指導主事高橋亜希子氏、指導主事進藤拓歩氏をはじめ、関係各位の皆様にご心より感謝申し上げます。併せて本書を御高覧いただきました皆様より忌憚のない御意見、御指導をいただきますようお願い申し上げます。

教頭 佐川 透

令和6年度 研究同人

校長 高田屋 陽 子
教 頭 佐 川 透 渡 部 陽 子
教育専門監 小 野 直 子

【小学部】

岡 部 りか子	菅 千 聡	山 内 かほる	磯 邊 千 春	大 澤 安 希
土 門 柊	若 月 圭	宇佐美 朝 子	渡 辺 舞 子	小 玉 美貴子
泉 薫	越 後 駿	矢 野 隆 治	加 賀 美砂子	慶 長 美紀子
山 田 玲 子	徳 重 喬 子			

【中学部】

島 津 真奈美	小 松 良 平	伊岡森 真 由	浅 利 節 子	大 高 梨沙子
信 太 渉	兜 森 宏 征	播磨屋 梢	齋 藤 行 正	熊 谷 衛
佐々木 和 音	佐 藤 暁 子	佐 藤 篤	工 藤 あづさ	阿 部 隆
工 藤 未 央	藤 谷 和 紀	遠 藤 美和子	谷 藤 洋 子	目 黒 晃 子
保 坂 二美子	八 鍬 せい子			

【高等部】

神 田 純 一	石 川 雄 太	大 塚 佳 樹	市 川 美 帆	工 藤 彩 野
熊 地 勇 太	河 村 奈 央	相 原 章 子	原 田 恵	藤 田 貴 士
加 藤 由 子	畑 山 拓	草 階 朋 子	五十嵐 美 月	朝 香 賢 介
村 山 敏 子	大 友 明希子	笹 渕 理恵子	佐 藤 孝 浩	三 浦 ちあき
加 藤 麻 美	小 森 美 香	佐々木 憲 一	相 原 淳	渋谷 純 一
檜 岡 裕 子	米 田 満 美	石 井 悟	五十嵐 一	

研究紀要「共に歩む」第21号

発行年月日 令和7年3月
発行所 秋田県立支援学校天王みどり学園
〒010-0101 秋田県潟上市天王字追分西 27-18
TEL 018-870-4611 FAX 018-870-4612
HP <http://www.midori-s.akita-pref.ed.jp>
E-mail midori-s@akita-pref.ed.jp

